VoiceLab

トークマスターではこんなことができます

簡単検索! イラストもくじ 次ページから➡

TalkMaster
取扱説明書

このたびはトークマスターをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。本書は、お客様にトークマスターを安全で正しくお使いいただくためのものです。トークマスターをお使いになる前に、必ず本書をよくお読みください。お読みになった後は、トークマスターをお使いになる方がいつでも読むことができるところに大切に保管してください。

基本操作について … P6

ラジオを聞く … P14

録音する … P22

再生する … P43

録音データを消去する … P50

パソコンを活用する … P52

ラジオを聴く

FM放送をきれいに聴くには...

FM放送をスピーカーで聴くときは、アンテナを付けるときれいに聴くことができます。

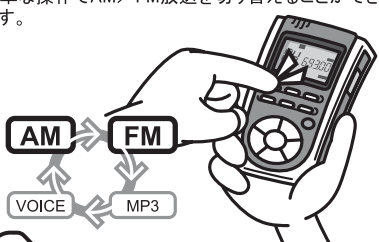
14ページ
「アンテナ・イヤホンを接続する」参照

周囲を気にせず楽しむには...

イヤホンを使用すると、自分に合った音量で番組を楽しむことができます。

AM／FM放送を切り替えるには...

簡単な操作でAM／FM放送を切り替えることができます。



15ページ
「ラジオのAM放送／FM放送を切り替える」参照

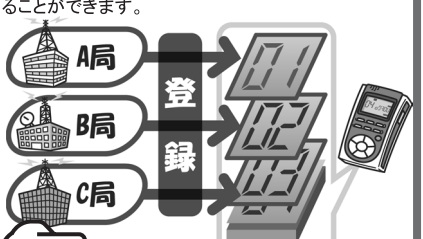
放送局を選ぶには...

デジタルチューナーの採用で、確実に放送局の周波数を受信することができます。

16ページ
「周波数を合わせる」参照

よく聴く放送局を登録するには...

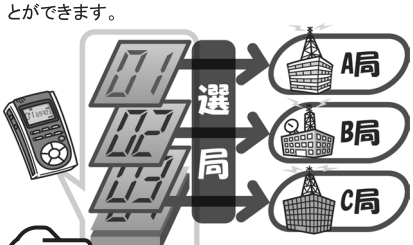
AM／FM放送それぞれ10局ずつの放送局を登録することができます。



18ページ
「放送局（周波数）を登録する」参照

登録した放送局を聴くには...

一度登録した放送局は、簡単な操作で選局することができます。



20ページ
「登録した放送局で聴く」参照

録音する

ラジオ番組を録音するには...

今聴いているラジオ番組をワンタッチの操作で録音することができます。

25ページ
「ラジオを手動で録音する」参照

留守番録音をするには...

深夜・早朝でも簡単な操作でタイマー録音をすることができます。

26ページ
「ラジオをタイマー録音する」参照

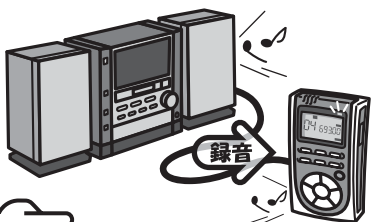
音声を録音するには...

内蔵マイクだけでなく、市販の外部マイクを使用して音声を録音することもできます。

38ページ
「音声を録音する」参照

ほかの機器から録音するには...

オーディオなどと接続して、外部の音源をトークマスターに録音することができます。



40ページ
「外部機器からトークマスターに録音する」参照

ほかの機器にダビングするには...

トークマスターで録音したラジオ番組や音声は、外部機器にダビングすることができます。

※ パソコンに録音データをコピーする場合は、「録音データをパソコンに保存する」(69ページ)を参照

42ページ
「トークマスターから外部機器に録音する」参照

■ 再生する

■ 録音データを消去する

■ パソコンを活用する

については、次ページをご覧ください。

再生する

録音したラジオ番組や音声を聴くには...

再生の頭出し時には、カセットテープのような煩わしさがなく、
目的の曲や音声をすばやく聴くことができます。

43ページ

「録音したデータやMP3、WMAファイルを再生する」参照

MP3、WMAファイルを聴くには...

トークマスターでは、パソコンからコピーしたMP3と
WMA形式のファイルを再生することができます。

43ページ

「録音したデータやMP3、WMAファイルを再生する」参照

音質を変えるには...

ジャンルに合わせて音質を変えることができ、臨場
感にあふれた音楽を楽しむことができます。

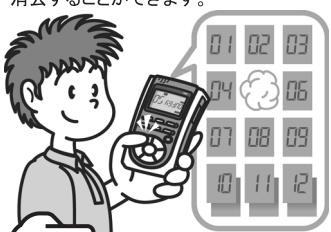
49ページ

「音質を変える」参照 （MP3モード時のみ）

録音データを消去する

データをひとつずつ消去するには...

録音したデータは、ひとつずつ確認して
消去することができます。



50ページ

「データをひとつずつ消去する」参照

すべてのデータを消去するには...

内蔵メモリーやメモリーカードのデータ
は、一括で消去することができます。

51ページ

「すべてのデータを一括で消去する」参照

パソコンを活用する

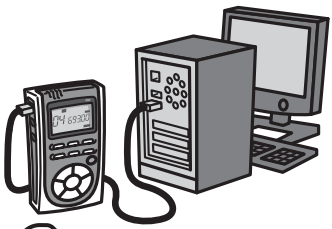
付属のソフトをパソコンへインストールするには...

トークマスターのデータは、パソコンで管理したり再生することができます。

パソコンを活用する前には付属のソフトをインストールしてください。

53ページ
「TM-EXPLORERをインストールする」参照

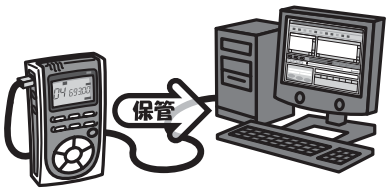
パソコンと接続するには...



67ページ
「パソコンと接続する／取り外す」参照

録音データをパソコンに保存するには...

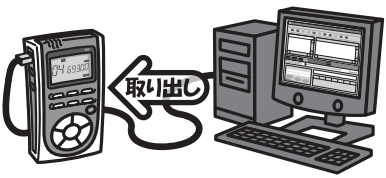
録音したラジオ番組や音声データは、付属のソフトを使用してパソコンに保存することができます。



72ページ
「録音データをパソコンに保存する」参照

パソコンから録音データを取り出すには...

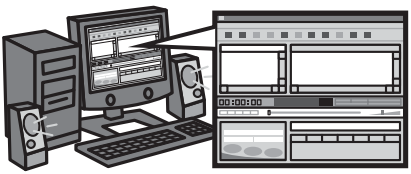
パソコンに保存したデータやMP3、WMA形式のファイルは、付属のソフトを使用してトークマスターに取り出すことができます。



75ページ
「ファイルを本機にダウンロードする」参照

パソコンで録音データを聴くには...

録音したラジオ番組や音声データは、付属のソフトを使用してパソコンで再生することができます。



78ページ
「パソコンでデータを再生する」参照

内部メモリーを初期化するには...

本機の内部メモリー、メモリーカードは、付属のソフトを使用して初期化することができます。

82ページ
「内部メモリーを初期化する」参照

102ページ
「本体の動作が不安定（本体でフォーマットを行う方法）」参照

安全にお使いいただくために

本書に使用している記号について

本書では、安全にお使いいただくためにいろいろな絵表示を使用しています。この表示の内容を無視して取扱を誤った場合生じる可能性のある内容を以下のように表記しています。

以下の内容をよく確認した上で、本文をお読みください。

⚠警　告	**使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定されることを示しています。**
⚠注　意	**使用者が傷害を負う可能性、または物的損害のみの発生が想定されることを示しています。**

絵表示の意味

記号は、注意すべき内容を示しています。

記号は、してはいけない内容を示しています。

記号は、しなければならない内容を示しています。

⚠警　告
本機器は一般オフィスや家庭の OA 機器、ないしホビー用途の製品として設計されています。幹線通信機器や、業務の中心となるコンピュータシステム、人命に直接関わる医療機器のような、極めて高い信頼性および安全性が必要とされる機器には、接続しないでください。
万一、異常な臭いがしたり、発熱・発煙した場合は、ただちに使用をやめ、電源を切り、当社までご相談ください。火災、故障の危険があります。
本機器を分解して内部の部品に触れないでください。感電の危険があります。また故障の原因にもなります。この場合は保証期間であっても保証範囲外となりますのでご注意ください。
端子部を手や金属で触れたり、針金等の異物を挿入しないでください。故障、感電の危険があります。

⚠注 意
使用電圧、使用温度、使用湿度は巻末の仕様一覧に記載されている定格範囲内でご使用ください。定格外の使用条件で使用された場合、火災、故障の原因になります。
本機器を濡らさないでください。水などの液体がかかると、発熱、感電、故障の原因となります。
内部に異物（金属類や燃えやすい物、ほこり等）が入らないようにしてください。火災、感電、故障の原因になります。
雨、ちり、ほこりの多いところで使用しないでください。火災、感電、故障の原因となります。
風呂場など水が直接かかる場所や高温多湿で結露しやすい場所では使用しないでください。火災、感電、故障の原因になります。
直射日光の強いところや、炎天下の車内等、高温な場所での使用、放置はしないでください。発熱、変形、故障の原因となります。
発熱する器具の近くでの使用はさけてください。発熱、変形、故障の原因となります。
静電気や磁界強度の強い場所でのご使用／保管はさけてください。故障の原因となります。
曲げたり、強い衝撃を与えたり、落したり、投げつけたりしないでください。故障、破損、火災の原因となります。
ぐらついた台の上や、不安定な場所に置かないでください。落下により故障やけがの原因となります。
コネクタ部分には無理な力を加えないでください。破損の原因になります。
乳幼児の手の届かないところで使用／保管してください。けが、感電、故障の原因になります。
電子機器の使用が制限されている場所での使用は控えてください。
自動車、自転車などの運転中には操作しないでください。

ご使用にあたってのお願い

(1) 本書の内容の一部または全部を無断で転載することは、固くお断りします。

(2) 本書の内容について、将来予告なしに変更することがあります。

(3) 本機器を運用した結果の影響、または誤ったお取り扱いで生じた不具合、または第三者からの損害賠償の請求については、当社では責任を負いかねますのでご了承ください。

(4) 機器の故障および修理によるメモリー内容の消失については当社では一切その責任を負いませんのでご了解ください。

(5) 乱丁、落丁はお取り替えいたします。

(6) キャッシュカード、定期券など、磁気を利用したカード類をスピーカーに近づけると磁石の影響で磁気が変化し、カードが使えなくなることがあります。

(7) 顧客または第三者が本機器を正しく使用されなかった場合や本機器が静電気、電気的衝撃を受けた場合は、修理や電池交換の際に記憶内容が変化あるいは消失するおそれがあります。

(8) 本機器は日本国内でのみ使用可能です。海外では規格が異なるため、使用できません。

(9) 本書に記載されているハードウェアもしくはソフトウェアの名称は、各社の商標、もしくは登録商標です。

著作権について

- 本取扱説明書の内容に対するすべての著作権はサン電子株式会社にあります。

  サン電子株式会社の事前承認なしで、本取扱説明書の全部または一部を無断複製および翻訳配布、また商業的に利用することはできなく、これに違反すると著作権侵害になります。

  また、本取扱説明書のすべての内容は、製品の機能および性能向上のために事前予告なしで変更されることがあります。

  これによる製品と取扱説明書上の相異によって発生する事項に対する当社の責任はありません。

- MP3 ファイルを個人的な用途ではなく、商業的またはサービスの目的で使用することはできません。これに違反することは、国内著作権法に触れる行為になります。

  録音した内容を個人的に使用する目的以外に無断複製することは法律で禁止されています。

目次

お使いになる前に 1
製品内容の確認 1
各部の名称と機能 2
画面表示について 5

基本操作について 6
電池を入れる 6
ボタン操作について 8
電源を入れる／切る 9
操作をやり直す／音量を調節する 10
モードを選ぶ 11
時計を合わせる／修正する 12

ラジオを聴く 14
アンテナ・イヤホンを接続する 14
ラジオの AM 放送／ FM 放送を
切り替える 15
周波数を合わせる 16
放送局（周波数）を登録する 18
テレビチャンネルの受信について 18
登録した放送局で聴く 20

録音する 22
録音をする前に 22
録音先メモリーを切り替える 23
録音残量を確認する 23
ラジオを手動で録音する 25

予約録音について 26
ラジオをタイマー録音する 26
予約を消去する 33
予約を修正する 35
予約内容を確認する 37
音声を録音する 38
外部機器から
トークマスターに録音する 40
トークマスターから
外部機器に録音する 42

再生する 43
録音したデータや MP3、
WMA ファイルを再生する 43
レジューム機能について 45
リピートモードを設定する 47
区間再生を設定する 48
音質を変える 49

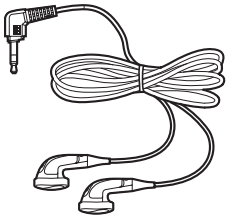
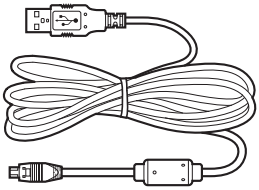
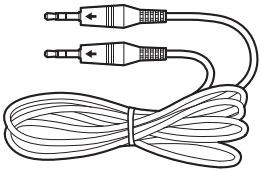
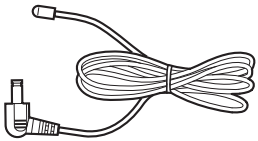
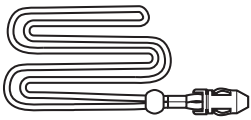
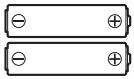
録音ファイルを消去する 50
録音ファイルを消去する 50

パソコンを活用する 52
TM-Explorer について 52
TM-Explorer をインストールする 53
USB ドライバーを
インストールする 55
TM-Explorer を
パソコンから削除する 65
パソコンと接続する／取り外す 67
TM-Explorer を起動する 68
録音データをパソコンに保存する 72
ファイルを本機に
ダウンロードする 75
パソコンでデータを再生する 78
ファイルの削除 80
内部メモリーを初期化する 82
その他の機能 83

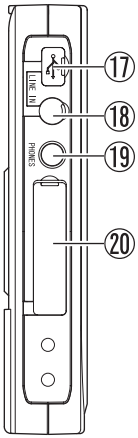
付録 84
メモリーカードについて 84
メモリーカードの
取り扱いについて 85
USB ドライバーの再インストール 86
便利な使い方 95
故障かなと思ったら 96
Q&A 集 103
NHK 第 2 放送局周波数一覧表 105
仕様 106
保証規定 112
保証書 113
ご案内 114
お問い合わせ先 114

製品内容の確認

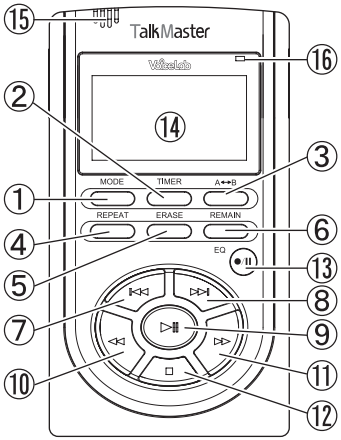
お買い求めいただいた製品には、以下の部品がセットに含まれています。
各部品を箱から取り出し、すべての部品が揃っているかを確認してください。

		
トークマスター本体	ステレオイヤホン	専用 USB ケーブル
		
オーディオケーブル	FM 用ケーブルアンテナ	ネックストラップ
		
取扱説明書	TM-Explorer（CD-ROM）	単四形乾電池 2 本 （動作確認用）

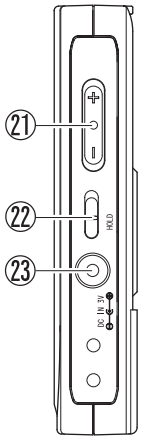
各部の名称と機能



左側面部



前面部



右側面部

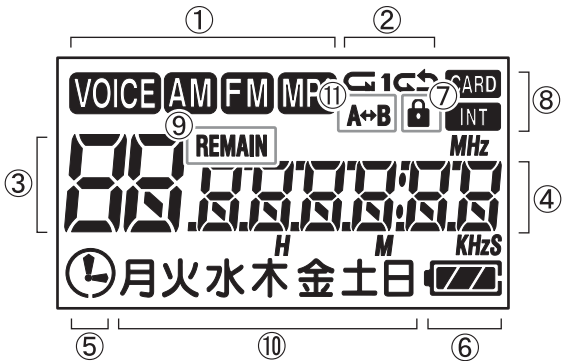
前面部		
①	MODE （モードボタン）	モードを切り替えます。
②	TIMER （タイマーボタン）	時刻の設定、表示、タイマー録音の設定および確認を行います。
③	A↔B （A↔Bボタン）	区間再生の再生箇所指定、録音データの保存先の切り替えを行います。
④	REPEAT （リピートボタン）	再生時のリピート方法の設定を行います。（47 ページ参照）
⑤	ERASE （イレースボタン）	データを消去します。
⑥	REMAIN（EQ） （リメイン・イコライザーボタン）	**【VOICE モード】** 録音可能残時間を数秒間表示します。 長押しで録音音質モード（高音質：32kbps/標準音質：16kbps）を切り替えます。 **【MP3 モード】** 音質を切り替えます。 **【VOICE・AM・FM モード録音時】** 録音可能残時間と通常表示を切り替えます。

⑦	I◀◀ (ファイル戻しボタン)	【VOICE ／ MP3 モード】 ファイルの切り替えを行います。 【AM ／ FM モード】 チャンネルの切り替えを行います。
⑧	▶▶I (ファイル送りボタン)	【VOICE ／ MP3 モード】 ファイルの切り替えを行います。 【AM ／ FM モード】 チャンネルの切り替えを行います。
⑨	▶II (再生・一時停止ボタン)	電源OFF時には長押しで電源が入ります。 時刻や予約などの設定時には入力の確定を行います。 【VOICE ／ MP3 モード】 ファイルの再生／一時停止を行います。 【AM ／ FM モード】 チャンネルの登録を行います。
⑩	◀◀ (早戻しボタン)	【VOICE ／ MP3 モード】 ファイルの早戻しを行います。(再生時10倍速、停止時100倍速) 【AM ／ FM モード】 放送局の選局を行います。
⑪	▶▶ (早送りボタン)	【VOICE ／ MP3 モード】 ファイルの早送りを行います。(再生時10倍速、停止時100倍速) 【AM ／ FM モード】 放送局の選局を行います。
⑫	■ (停止ボタン)	長押しで電源が切れます。 【VOICE ／ MP3 モード】 再生･録音時は停止します。 【AM ／ FM モード】 録音を停止します。
⑬	●/II (録音ボタン)	【VOICE モード】 音声の録音、一時停止を行います。 【AM ／ FM モード】 受信中のラジオの録音、一時停止を行います。
⑭	液晶画面	ラジオの周波数、ファイルの情報などを表示します。
⑮	内蔵マイク	音声を録音するときに使用する、小型高性能のマイクです。
⑯	録音インジケーター	録音中に赤く発光します。

各部の名称と機能（つづき）

左側面部		
⑰	USB端子	USBケーブルを接続します。
⑱	外部マイク端子	外部機器から録音するときはオーディオケーブルを接続します。 外部マイクで録音するときは市販のマイクを接続します。
⑲	イヤホン端子	イヤホン、FM用アンテナを接続します。 外部機器へ出力するときはオーディオケーブルを接続します。
⑳	外部メモリーカード挿入口	メモリーカードを差し込みます。
右側面部		
㉑	ボリュームボタン	音量を調節します。再生音量と録音レベルは関連がありません。
㉒	ホールドスイッチ	ほかのボタン操作が無効になります。
㉓	ACアダプタ端子	オプションのACアダプタを接続します。

画面表示について



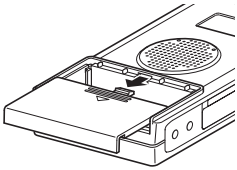
①	モード表示	現在のモードを表示します。
②	リピート選択 (47 ページ)	再生時の繰り返し設定を表示します。 …すべてのファイルを1回再生します。 1 …1ファイルのみを1回再生します。 1 …1ファイルのみを繰り返し再生します。 …すべてのファイルを繰り返し再生します。
③	ファイル番号	**【VOICE ／ MP3 モード】** ファイル番号を表示します。 **【AM ／ FM モード】** チャンネル番号、タイマー録音設定番号を表示します。
④	ファイル情報／周波数表示	TIMERボタンを押すと現在の時刻が10秒間表示されます。 **【VOICE ／ MP3 モード】** 再生中のファイルの時間を表示します。 **【AM ／ FM モード】** 受信時は周波数を表示します。録音時は録音時間を表示します。
⑤	タイマー設定	タイマー録音を設定したときに表示されます。
⑥	電池残量	電池の残量を表示します。
⑦	ホールド	ホールドスイッチをONにしたときに表示されます。
⑧	メモリー領域	録音時の保存先または再生元が表示されます。
⑨	録音残時間	録音残時間を表示します。
⑩	曜日	予約設定時に曜日を設定します。
⑪	A↔B	区間再生設定を表示します。

電池を入れる

本機に使用する電池は単四形乾電池2本です。

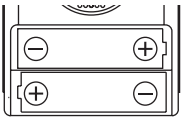
電池の入れ方

1 本機裏面の裏ぶたを外します。



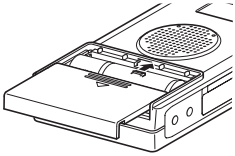
2 単四乾電池2本を、右図の向きで挿入します。

電池のプラス、マイナスを間違えないでください。
※アルカリ電池のご使用をお勧めします。
※電池を入れると電源が自動的に入り、画面が全灯表示します。



3 裏ぶたを閉じます。

※充電式のニッケル水素電池も使用できます。（アルカリ電池より若干動作可能時間が短くなります）



電池の取り扱いについて

※電池の使用可能時間の目安

	録音時 （イヤホン再生時）	スピーカ再生時 （音量：中間）	イヤホン再生時 （音量：中間）
アルカリ電池	7 時間	6 時間	11 時間

※上記の時間はあくまで目安であり、電池の種類や保管状態等で変化します。
特に、低温時やメモリーカード使用時はこれより短くなります。

※電池使用上の注意事項

・種類の異なった電池を混ぜて使用しないでください。
・本機を長期間使用しないときは、本機から電池を外してください。
再び使用するときは、時計の設定を行ってください。
・充電式電池を使用する場合は、電池および充電器の取扱説明書をよく読んで正しくお使いください。
・新しい電池を入れても画面が表示されないときは電池の極性を確認してください。
極性が正しく入っているにもかかわらず画面表示されないときは当社へ修理を依頼してください。
・長時間録音するときは新しい電池に交換してください。

電池の残量表示／ネックストラップの付け方について

残量表示について

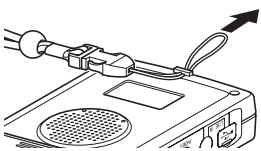
電池の容量は十分あります	
電池の容量は若干消耗しました	
電池の容量は残りわずかです 電池を交換してください	
電池容量がなくなりました	

※電池が完全になくなると［BAT］と表示され、自動的に電源が切れます。そのまま放置すると、時計の設定が消えてしまいます。
（BATの表示から30分程度は時計の設定は保持されます）

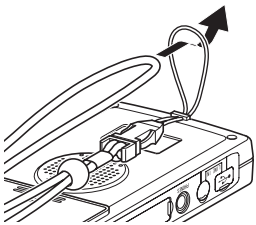
ネックストラップの取り付け方

※ 運動時などの激しく体を動かすときは、事故防止のためにネックストラップを使用しないでください。

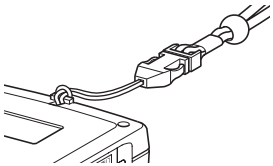
1 本機の裏面上端部の穴に、ストラップの短いほうを通します。



2 通した部分のストラップの輪に、ストラップの太いほうを通します。



3 そのまま引き出して結び目ができるようにします。
ほどけないよう、強めに引っ張ってください。



ボタン操作について

ボタンの長押しと短押し

ボタンの操作方法には、短く押す「短押し」と、長めに押す「長押し」の２通りがあります。

本書では、特に指示がないボタン操作を「短押し」としています。
長押しの指示がある場合は、画面を見ながらボタンを押し続け、表示が変わったら離してください。

	本書の表記	動作
長押し	長	押す →（長い）画面が変わるまで押し続ける→ 離す
短押し	短	押す →（短い）→ 離す （1秒以内）

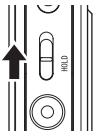
ホールドスイッチ

本機では、誤ったボタン操作を防止するためにホールドスイッチ機能が用意されています。
この機能をONにするとボタン操作が無効となり、カバンやポケットの中での誤動作を防ぐことができます。

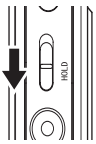
1 ホールドを設定するときはホールドスイッチを矢印の方向へスライドさせます。

ホールドを設定すると画面にカギのマークが表示され、「HOLD」が３秒間点滅します。その後、ホールドスイッチ以外のボタン操作が無効となります。

ホールド設定中に他のボタンを押すと画面に「HOLD」の表示が点滅します。



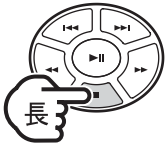
2 ホールドを解除するときはホールドスイッチを矢印の方向へスライドさせます。



電源を入れる／切る

1 電源をONにするときは ▶II ボタンを画面が表示されるまで長押しします。

2 電源をOFFにするときは ■ ボタンを画面が消えるまで長押しします。



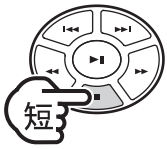
オートオフ機能

5分以上何もボタン操作をしないと、電源が自動的に切れます。
ただし、AM／FMモードのとき、この機能は働きません。

操作をやり直す／音量を調節する

操作をやり直す（操作を間違えたとき）

設定操作中に誤ってボタンを押してしまったり、途中で設定を中止したいときは、■ ボタンを押します。
操作が中断され元の画面に戻ります。



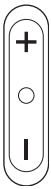
設定の自動中断

予約設定や周波数プリセットなどの設定中、数十秒間操作をしないと自動的に元の画面に戻ります。
※ 操作途中で元に戻ってしまった場合は最初からやり直してください。

音量を調節する

本体右側面のボリュームスイッチでお好みの音量に調節します。
- ＋を押すと、音量が大きくなります。
- －を押すと音量が小さくなります。

音量調節は 0 から 30 の間で可能です。

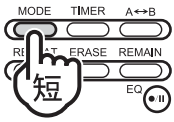


※ 音量は周囲の音が聞こえる程度でお聴きください。
思わぬ事故につながるおそれがあります。
また、大音量で聴くと、健康を害するおそれがあります。

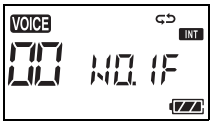
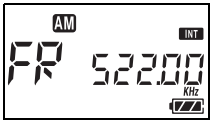
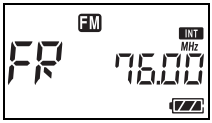
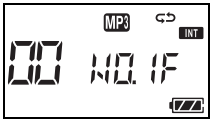
モードを選ぶ

本機には４つのモードがあります。

モードの切り替えはMODEボタンを使用します。
ボタンを押すごとにモードが、VOICE ⇒ AM ⇒ FM ⇒ MP3⇒VOICE の順に切り替わります。



各モードの内容は以下のとおりです。

VOICE	音声の録音/再生とラジオの録音を再生するモード	
AM	AMラジオの受信モード	
FM	FMラジオの受信モード （イヤホンまたはFM用ケーブルアンテナを接続してください）	
MP3	MP3、WMAファイルの再生モード	

※ [NO.IF] の意味
録音されたファイルが何もない状態のときに表示されます。

※［FR］の意味
Frequency（周波数）の意味で、登録された放送局の呼び出しを行わずに手動（自動）選局した場合［FR］と表示され、『登録した放送局で聴く』で行った場合は、登録したチャンネル番号が表示されます。

時計を合わせる／修正する

お買い上げの状態では、時計が月曜日12:00で停止しています。
時刻設定を行うと内蔵時計が動作を開始します。

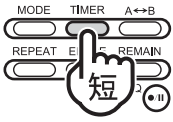
※ 時刻の設定は、電池を外した状態で約30分以上放置すると月曜日12:00で停止した状態に戻ります。
※「時」は24時間表示です。

タイマー録音を行うときは、はじめに本機の時計を正確な時刻に設定してください。

1 電源をONにします。

2 TIMERボタンを短押しして、曜日を点滅させます。

すでに現在時刻が設定されているときは、現在時刻が表示されます。
現在時刻を修正するときはTIMERボタンを長押しして曜日を点滅させてください。（以下の操作は同じです）

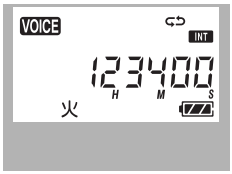


3 ◄◄ ボタン、または ►► ボタンで設定します。

4 ►Ⅱボタンを押して確定し、次の項目に移ります。

設定は「曜日」→「時」→「分」の順に行います。

5 最後に「分」を設定し、▶Ⅱを押すと、時刻の設定が完了して設定前の画面に戻ります。
※セットした時刻を確認するときは、TIMERボタンを押します。



※ AC アダプター使用時の注意

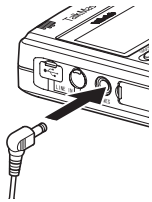
- 録音、再生などの動作中に AC アダプターの接続または取り外しを行なわないでください。（動作が停止します）
- AC アダプターをコンセントから外す場合はトークマスターと AC アダプターも外してください。（電池は入れておいてください）
- （トークマスターと AC アダプターを接続したまま、コンセント側だけを外しておくと、時計の設定が消えて予約録音ができなくなることがあります）

アンテナ・イヤホンを接続する

FM放送を内蔵スピーカーで聴くときは、FM用ケーブルアンテナを接続します。
イヤホンでFM放送を聞く場合は、イヤホンがFM用ケーブルアンテナの役目をします。別途FM用ケーブルアンテナを接続する必要はありません。

FM用ケーブルアンテナの接続

1 本機左側面部のイヤホン端子にFM用ケーブルアンテナのジャックを差し込みます。



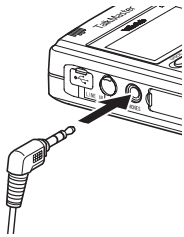
2 受信状態が良くなるようにFM用ケーブルアンテナの位置を動かして調整します。

※アンテナケーブルを本機に巻き付けないでください。
ケーブルが断線したり、ラジオのノイズが大きくなったりします。

イヤホンの接続

1 本機左側面部のイヤホン端子にステレオイヤホンのジャックを差し込みます。

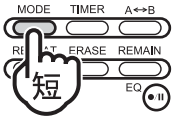
※イヤホンケーブルを本機に巻き付けないでください。
ケーブルが断線したり、ラジオのノイズが大きくなったりします。



ラジオの AM 放送／ FM 放送を切り替える

ラジオの FM 放送／ AM 放送を切り替えるときは、MODE ボタンを使用します。
ただし、MODE ボタンは FM 放送／ AM 放送の切り替え以外にも使用しますので、操作の途中でラジオの FM 放送／ AM 放送以外のモードになった場合は、MODE ボタンの操作を繰り返し行ってください。

1 **MODE ボタンを押して、AM または FM モードを選択します。**
ボタンを押すごとに、VOICE ⇒ AM ⇒FM⇒MP3⇒VOICE の順に切り替わります。



※［FR］の意味
Frequency（周波数）の意味で、登録された放送局の呼び出しを行わずに手動（自動）選局した場合［FR］と表示され、『登録した放送局で聴く』で行った場合は、登録したチャンネル番号が表示されます。

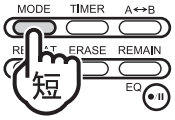
周波数を合わせる

周波数の合わせ方には、お好みの放送局の周波数を自分で合わせる手動選局と、受信できる周波数を自動的に選局する自動選局の２通りの方法があります。

手動選局

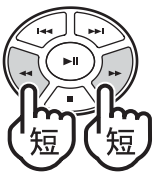
1 MODE ボタンを押して、AM または FM モードを選択します。

ボタンを押すごとに、VOICE ⇒ AM ⇒FM⇒MP3⇒VOICE の順に切り替わります。



2 ◀◀ または ▶▶ ボタンを押してお好みの周波数に合わせます。

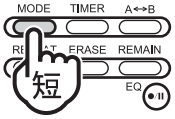
◀◀ ボタンを押すと周波数は低くなります。 ▶▶ ボタンを押すと周波数は高くなります。AMラジオを上手に受信するには、『電波指向性について』（P.20）を参照してください。



自動選局

1 MODE ボタンを押して、AM または FM モードを選択します。

ボタンを押すごとに、VOICE ⇒ AM ⇒FM⇒MP3⇒VOICE の順に切り替わります。



2 ◀◀ または ▶▶ ボタンを画面表示が動くまで（1秒以上）長押しします。

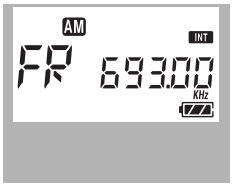
自動選局が始まり、放送局を受信すると3秒間止まります。

受信電波が弱いときは止まりません。

3 お好みの放送局を受信したら ■ ボタンを押してください。

■ ボタンを押さないと再び自動選局を開始します。

※自動選局中に ◀◀ または ▶▶ ボタンを押すと手動選局状態に切り替わります。



放送局（周波数）を登録する

本機は手動または自動選局した放送局を登録することができます。
登録できる放送局は AM ／ FM 放送でそれぞれ 10 局、合計 20 局です。

1 登録したい放送局を選局します。
選局の方法については『周波数を合わせる』(P.16) を参照してください。

2 ►II ボタンを押します。
チャンネル番号が点滅表示します。

3 チャンネル番号がこのままでよいときは手順4へ進みます。
チャンネル番号を変更するときに I◄◄ または ►►I ボタンを押します。

4 ►II ボタンを押します。
現在選択されている番号に放送局を登録します。
チャンネル登録操作の途中でしばらく何も操作しなかった場合、今までの操作が無効になり、操作前の画面に戻ります。手順2からやり直してください。

※ テレビチャンネル（1ch ～ 3ch）の受信について

テレビチャンネルの 1ch ～ 3ch は電波状況が良ければ FM モードにて下記の周波数で受信することができます。

1ch：95.7NHz または 95.8MHz
2ch：101.7MHz または 101.8MHz
3ch：107.7MHz または 107.8MHz

登録した放送局の変更

一度登録した放送局を変更します（本機は一度登録した放送局の削除はできません）。

1 登録したい放送局を選局します。
選局の方法は『周波数を合わせる』（P.16）を参照してください。

2 ▶‖ ボタンを押します。
空いているチャンネル番号のうち、一番小さい番号が点滅表示します。

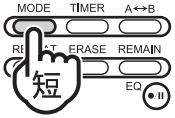
3 ⏮ または ⏭ ボタンを押して、変更したいチャンネル番号を選択します。

4 ▶‖ ボタンを押します。
現在選択されている番号に放送局を登録します。
チャンネル登録操作の途中でしばらく何も操作しなかった場合、今までの操作が無効になり、操作前の画面に戻ります。手順2からやり直してください。

登録した放送局で聴く

本機に登録した放送局を呼び出します。
呼び出しの際には、登録で使用したチャンネル番号を指定します。

1 **MODEボタンを押してAMまたはFMモードを選択します。**
ボタンを押すごとに、VOICE ⇒ AM ⇒FM⇒MP3⇒VOICE の順に切り替わります。



2 **I◀◀ボタンまたは▶▶Iボタンを押して、お聴きになりたい放送局のチャンネル番号を指定します。**

電波指向性について

受信状態は周囲の環境に大きく左右され、特にAMラジオはその傾向が顕著に表れます。受信を良くする決定的な方法はありませんが、一般的な方法をご紹介します。

※ 下記の内容については、当社が保証するものではありません。ご覧になった方の責任と判断でご活用ください。下記内容を試した結果、良好な受信状態が得られない場合でも、当社ではその責を負いかねます。

●家電製品からできるだけ遠ざける

テレビや電灯など多くの家電製品は少なからず、ラジオに有害なノイズを出しています。AM ラジオの設置場所をできるだけそれらの家電製品から遠ざけます。

●屋内でもできるだけ屋外に近い場所に設置する

ビルや鉄骨住宅内では特に電波が弱くなります。送信所方向の窓付近に置いてみてください。

●トークマスターの置き方（向き）

トークマスターの AM アンテナ（バーアンテナ）は本体内部の一番頭の部分（トークマスターのロゴがある付近）にあります。
原理的に、このバーアンテナが放送局の方向と垂直になり、なおかつバーアンテナが地面に対して水平な向きになるようにすることが一番電波を受信しやすい状態とされています。本機を立てることで受信状態を確認することができます。

●市販外部アンテナを使う

トークマスターには外部アンテナ端子はありません。AM ラジオの受信感度向上のためには、市販の結合器タイプ（バーアンテナの近くに貼り付けるタイプ）ループアンテナをお試しください。

●電話の引込み線に近づけてみる

トークマスターのバーアンテナがある部分（トークマスターのロゴがある付近）を電話の引込み線に近づけてみてください。
引込み線がアンテナになって受信が良くなる場合があります。

録音をする前に

録音をする前には、次の4つの設定を確認してください。

- 録音元
- 録音先メモリー
- 録音できる残り時間
- 録音音質

上記の確認は、手動録音／タイマー録音のいずれの場合にも必要です。
確認および設定の切替方法は以下のとおりです。

※ 録音開始直後の5秒間は、停止ボタンを押しても録音が停止しません。
※ メモリーカードに録音中は電池やメモリーカードを抜かないでください。録音データが消えるおそれがあります。

録音元を決定する

MODEボタンを押して録音元を決定します。

ボタンを押すごとに 4 つのモードを切り替えられます。
録音元に選択できるのは、マイク、AM ラジオ、FM ラジオの 3 種類です。

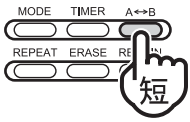
[VOICE]	マイク録音。会議やボイスメモに使用できます。
[AM]	AM ラジオを録音。
[FM]	FM ラジオを録音。
[MP3]	このモードでは録音できません。

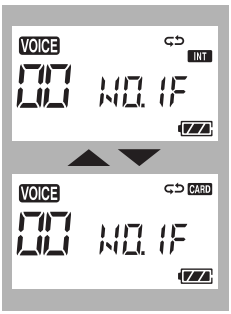
録音先メモリーを切り替える

本機は、録音データを内蔵メモリーと市販のメモリーカードに録音することができます。
標準の録音先メモリーは内蔵メモリーとなっています。
メモリーカードに録音するときは、データ保存先を切り替えます。

1 A↔B ボタンを押します。
録音先が内蔵メモリーとメモリーカードの間で切り替わります。

INT…内蔵メモリー
CARD …メモリーカード
※メモリーカードが入っていない場合は切り替わりません。

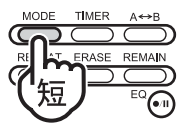




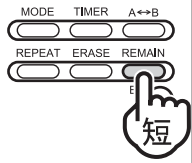
録音残量を確認する

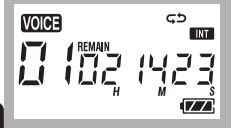
録音前や録音中に、[REMAIN] を押すと録音先メモリー（内蔵メモリーまたはメモリーカード）の録音できる残り時間を確認することができます。
※ メモリーがいっぱいになるとそれ以上録音ができません。録音操作をしたり残量確認したりすると［FULL］という表示が出ます。
不要なファイルを削除してメモリーに空き容量を作ってください。

1 MODE ボタンで VOICE モードを選択します。
ボタンを押すごとに、VOICE ⇒ AM ⇒FM⇒MP3⇒VOICEの順に切り替わります。



2 REMAIN（EQ）ボタンを押します。
録音可能残時間が数秒間表示されます。
録音中にこの操作を行うと時間表示が経過時間から残り時間に切り替わります。





※再度REMAIN／（EQ）ボタンを押すと経過時間表示に変わります。

録音をする前に（続き）

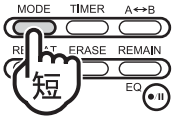
録音音質を切り替える

本機の録音音質には、高音質モードと標準モードの2つのモードがあります。

目的に応じて音質を選択することができます。

1 **MODEボタンを押してVOICEモードを選択します。**

ボタンを押すごとに、VOICE ⇒ AM ⇒FM⇒MP3⇒VOICEの順に切り替わります。



2 **REMAIN（EQ）ボタンを長押しします。**

REMAIN（EQ）ボタンを押すごとに、録音モードが切り替わります。

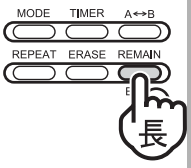
画面には以下の文字が表示されます。

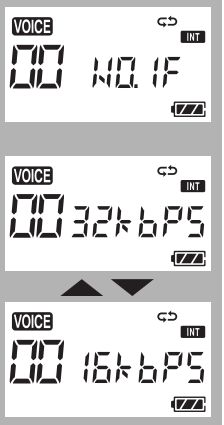
32kbps…高音質モード

標準モードより音質がよくなりますが録音できる時間は標準モードの約半分となります。

録音できる時間については『録音メモリー量』（P.107）を参照してください。

16kbps…標準モード





※ 録音音質は、一度設定するとそれ以降すべての手動録音／タイマー録音に有効となります。
また、予約タイマーごとに録音音質を設定することはできません。

ラジオを手動で録音する

ラジオ放送の録音方法には、今聞いている放送を録音する手動録音と、録音時刻や放送局を予約して自動的に録音するタイマー録音の2通りの方法があります。録音されたデータ（ファイルと呼びます）は、録音した順番にファイル番号が付けられます。

※ ファイル番号が99を超えての録音はできません。

※ メモリーカードに録音する場合、ラジオ放送の電波が弱いと本体ノイズが録音されてしまう場合があります。電波の弱いラジオ放送を録音するときは、内蔵メモリーに録音してください

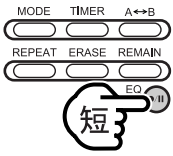
1 放送局を選択します。

放送局の選択については、『周波数を合わせる』(P.16)を参照してください。

※録音を開始する前には、『録音をする前に』(P.22) を参照して録音先、録音残量、録音モードの確認を行ってください。

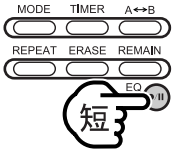
2 ●/II ボタンを押して録音を開始します。

録音インジケーターが赤く点灯します。画面左の番号は、ファイル番号を表します。



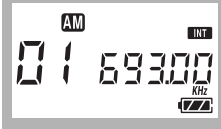
3 録音を一時停止するときは●/II ボタンを押します。

録音を再開するときはもう一度●/II ボタンを押します。



4 録音を終了するときは■ ボタンを押します。

録音インジケーターが消灯します。



※ 録音中に REMAIN ／ EQ ボタンを押すと録音残量表示に切り替わり、録音中に残り時間を確認する時に便利です。もう一度押すと経過時間表示になります。

※ 録音中に電池を抜かないでください。データが消えるおそれがあります。

ラジオをタイマー録音する

決まった時刻に放送される語学講座は、タイマー録音することで聞き逃すことがありません。

タイマー録音の流れ

1.タイマー録音を設定します

受信周波数（録音元）、録音の開始･終了時刻、曜日、予約チャンネル、録音先メモリーを設定します。

2.タイマー録音の開始／終了

設定した時刻になると自動的に電源が入り、録音を開始します。
※パソコンとUSB接続中はタイマー録音が作動しません。
タイマー録音を行うときはパソコンから本機を取り外しておいてください。
※タイマー録音中はスピーカーから音声が出ますので、深夜・早朝に録音するときはイヤホンを接続する、または音量を最小に絞っておくことをお勧めします。

3.録音したデータを再生します

タイマー録音したデータはVOICEモードで再生することができます。
※録音設定時の予約チャンネルと再生ファイルのファイル番号については次ページの表を参照してください。

1. タイマー録音の設定は以下のとおりに進めます。

1） 録音したい放送局を受信する（P.28 ）

2） 録音先メモリーを決定する（P.23 ）

3） 予約設定モードに入る（P.29 ）

4） 予約チャンネルを決定する（P.29 ）

5） 録音する曜日を決定する（P.30 ）

6） 録音開始時刻を決定する（P.30 ）

7） 録音終了時刻を決定する（P.31 ）

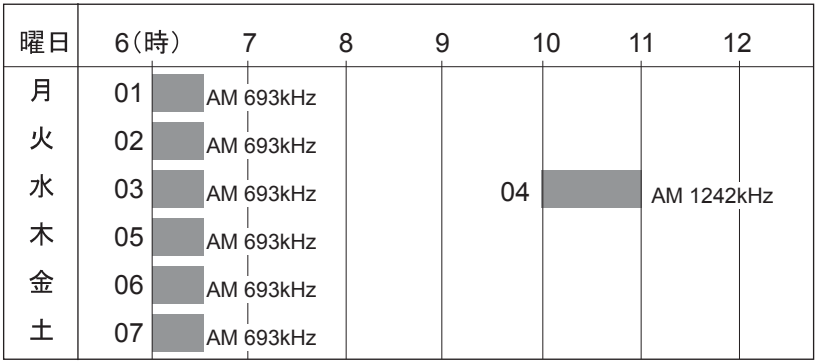
予約設定と録音結果の例

下記の予約内容でタイマー録音を行った場合、録音結果は以下のとおりとなります。

[予約内容]

予約チャンネル	予約された内容		
	周波数、曜日	開始時刻	終了時刻
01	AM693kHz、月～土曜日	6:00	6:30
02	AM1242kHz、水曜日	10:00	11:00

[録音される順番]



[録音結果]

録音ファイル番号	予約チャンネル	内容
01	01	月曜日、6:00 ～ 6:30、AM693kHz
02	01	火曜日、6:00 ～ 6:30、AM693kHz
03	01	水曜日、6:00 ～ 6:30、AM693kHz
04	02	水曜日、10:00 ～ 11:00、AM1242kHz
05	01	木曜日、6:00 ～ 6:30、AM693kHz
06	01	金曜日、6:00 ～ 6:30、AM693kHz
07	01	土曜日、6:00 ～ 6:30、AM693kHz

※ 予約チャンネルと録音されたファイル番号の関連性はありません。

ラジオをタイマー録音する（続き）

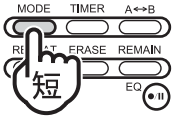
タイマー録音を設定する

下記の条件でタイマー予約をする場合を例にその手順を説明します。事前に時計の設定を済ませておいてください。
（『時計を合わせる／修正する』P.12 参照）

周波数	AM放送693kHz
曜日	毎週月曜日
時間	AM6:00～AM6:15
録音先メモリー	内蔵メモリー
録音チャンネル	01番

タイマー設定画面の表示

1 録音元を決めます。



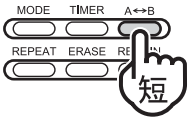
MODEボタンを押して録音元を決定します。ボタンを押すごとに４つのモードを切り替えられます。

[VOICE] マイク録音。会議やボイスメモに使用できます。
[AM]　AMラジオを録音
[FM]　FMラジオを録音
[MP3]　このモードでは録音できません。
※この説明では例として AM の録音を行いますので AM を選択してください。

2 ◀◀ ボタンまたは ▶▶ ボタンで、周波数を693 kHzに合わせます。

※タイマー録音をする前には、必ず録音する放送局を受信しておく必要があります。

3 録音先に内蔵メモリーを設定します。



表示がINTであればこのまま手順4へ進みます。

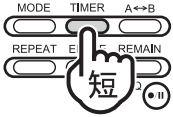
INT　内蔵メモリー
CARD　メモリーカード

タイマー録音をする前には、必ず録音先とその録音残量を確認してください。

4 TIMER ボタンを 1 回押します。

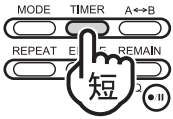
現在時刻が表示されます。

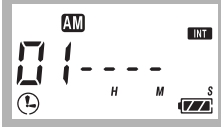
※時計が12:00で「月」が点滅表示された場合は時刻が設定されていません。『時計を合わせる／修正する』(P.12) を参照して設定してください。



5 もう一度 TIMER ボタンを押します。

タイマー設定画面が表示され、空いている予約チャンネル番号が点滅表示されます。





予約チャンネルの決定

6 今回は 01 に設定するので予約チャンネルが 01 になっていないときは、I◀◀ボタンまたは▶▶Iボタンを押して、予約チャンネルを01に合わせます。

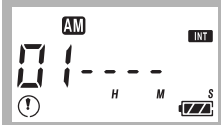
初めて01へ設定する場合

01が点滅し、周波数の表示域に「- - - -」が表示されます。

以前の設定が残っている場合

以前に設定された周波数または設定時刻が表示されます。

この場合は、以前の予約設定を変更しながら、もしくは削除してから、以下の操作に従って予約設定を行います。



7 01 が点滅しているときに▶IIボタンを一回押します。

曜日が点滅します。

ラジオをタイマー録音する（続き）

8 ◀◀ ボタンまたは ▶▶ ボタンを押して希望の曜日を選択します。

この例では月曜日なので ▶▶ ボタンを2回押します。
「月」が点滅します。

曜日の選択は、「月」～「日」のいずれかを指定する以外に、『平日すべて』、『毎日』を指定することができます。
平日…「月火水木金土」を選択
毎日…「月火水木金土日」を選択

9 ▶‖ ボタンを押して確定します。

録音の開始「時」が点滅します。

録音開始時間の設定

10 ◀◀ ボタンまたは ▶▶ ボタンを数回押して、06に合わせます。

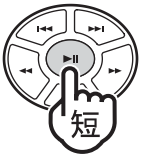
11 ▶‖ ボタンを押して確定します。

録音の開始「分」が点滅します。

12 ◀◀ ボタンまたは ▶▶ ボタンを数回押して、00に合わせます。

13 ▶‖ ボタンを押して確定します。

もう一度「時」が点滅します。
これは録音の終了「時」です。



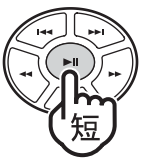
録音終了時間の設定

14 この例では終了「時」も06ですので、このまま手順15へ進みます。

通常、「時」を指定するときは ◀◀ ボタンまたは ▶▶ ボタンを数回押して合わせます。

15 ▶‖ ボタンを押して確定します。

録音の終了「分」が点滅します。



16 ◀◀ ボタンまたは ▶▶ ボタンを数回押して、15に合わせます。

ラジオをタイマー録音する（続き）

17 ►‖ ボタンを押して確定します。

これで、予約チャンネル01への録音予約が完了しました。画面は、AMラジオの受信状態に戻ります。

※『予約内容を確認する』（P.37）を参照して予約内容を再確認しておくことをお勧めします。

18 ■ ボタンを長押して電源をOFFにします。

録音開始時間が来ると、自動的に電源が入り録音を開始し、終了すると自動的に電源がOFFになります。
（電源ONのままでも予約録音は動作します）

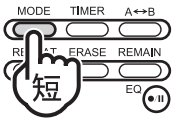
※ タイマー設定中は画面左下に時計マークが表示されます。
（時計のマークは設定時刻にかかわらず3時を指しています）
※ タイマー録音が始まると録音番号、録音経過時間が表示され、録音インジケータが赤く点灯します。
※ タイマー録音が終了すると電源が切れます。
※ 予約チャンネルは、01～10の番号をランダムに使うことができます。数の小さな番号から順に使用する必要はありません。
※ 使用していないタイマー録音の設定は必ず消去してください。
一度設定したタイマー録音は、消去操作するまで消えません。
（『予約を消去する』P.33参照）
※ 設定する時間、曜日は重複しないようにしてください。
予約の時間が重複した場合、後の予約の重複部分が録音されません。
※ 録音先メモリーは予約設定時の指定先に録音されます。
片方のメモリーがいっぱいになっても、録音先がもう一方のメモリーに自動的に切り替わることはありません。

予約を消去する

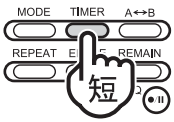
タイマー録音の設定は、その設定を消去するまで有効となります。
タイマー録音の必要がなくなったときは、設定を消去してください。
予約の消去方法は個別に消去する方法と、すべての予約を一括で消去する方法の2通りがあります。

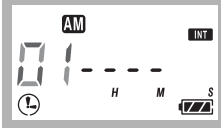
予約を個別に消去する

1 MODE ボタンで VOICE、AM、FMのいずれかのモードを選択します。
ボタンを押すごとに、VOICE ⇒ AM ⇒FM⇒MP3⇒VOICEの順に切り替わります。



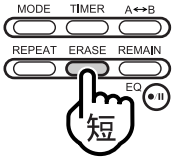
2 TIMER ボタンを２回押します。
タイマー設定画面が表示されます。



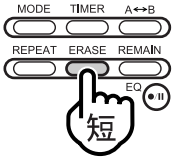


3 I◀◀ボタンまたは▶▶Iボタンを押して、消去する予約チャンネルに合わせます。
予約チャンネルの内容が表示されます。

4 ERASE ボタンを一回押します。
画面全体が点滅します。



5 点滅している間にもう一度ERASEボタンを押します。
指定したタイマー録音の設定が消去され、最初の画面に戻ります。

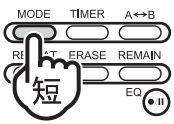


予約を消去する（続き）

予約を一括で消去する

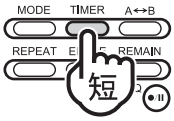
1 MODE　ボタンで　VOICE、AM、FMのいずれかのモードを選択します。

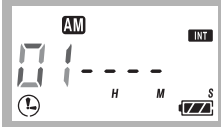
ボタンを押すごとに、VOICE ⇒ AM ⇒FM⇒MP3⇒VOICEの順に切り替わります。



2 TIMER ボタンを２回押します。

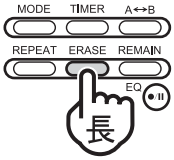
タイマー設定画面が表示されます。





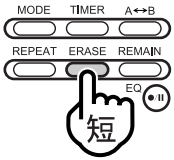
3 ERASEボタンを長押します。

［AL　ERASE］が点滅します。



4 点滅している間にもう一度ERASEボタンを押します。

すべてのタイマー録音の設定が消去され、最初の画面に戻ります。



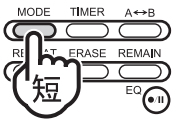
予約を修正する

予約を修正する（曜日、開始時間、終了時間のみ）

録音元（VOICE／AM／FM）、周波数、録音先メモリー（INT／CARD）は修正できません。この場合は一度予約を削除して最初から予約を設定し直してください。

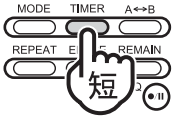
1 MODE ボタンで VOICE、AM、FMのいずれかのモードを選択します。

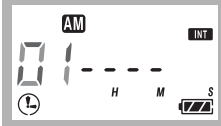
ボタンを押すごとに、VOICE ⇒ AM ⇒FM⇒MP3⇒VOICEの順に切り替わります。



2 TIMER ボタンを２回押します。

タイマー設定画面が表示されます。





3 I◀◀ボタンまたは▶▶Iボタンを押して、修正する予約チャンネルに合わせます。

予約チャンネルの内容が表示されます。

4 ▶IIボタンを数回押して、修正したい項目を表示します。

設定項目は、曜日―開始時―開始分―終了時―終了分の順に切り替わります。

予約を修正する（続き）

5 ◀◀ ボタンまたは ▶▶ ボタンを数回押して、内容を修正します。

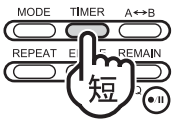
6 ▶II ボタンを押して確定します。

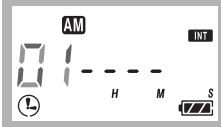
これで、録音予約の修正が完了しました。画面は、予約修正前の状態に戻ります。

予約内容を確認する

予約内容を確認する

1 TIMER ボタンを２回押します。
タイマー設定画面が表示されます。





2 I◀◀ボタンまたは▶▶Iボタンを押して、確認したい予約チャンネルに合わせます。
予約チャンネルの内容が表示されます。

3 ▶IIボタンを数回押して、内容を確認します。
設定項目は、曜日―開始時―開始分―終了時―終了分の順に切り替わります。

4 確認を途中で終えるときは■ ボタンを押します。
画面は、予約確認前の状態に戻ります。

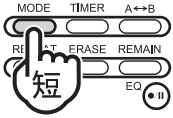
音声を録音する

内蔵マイクのほか、市販の外部マイクを使用して、会議や取材などの録音をすることができます。
また、音声のタイマー録音もすることができます。
データは録音した順番にファイル番号が付けられます。
ファイル番号が99を超えての録音はできません。

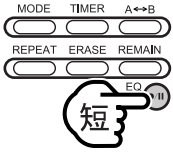
手動録音

内蔵マイクを使用した録音方法

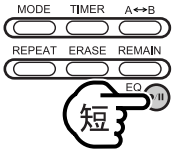
1 MODE ボタンを押して VOICE モードを選択します。
ボタンを押すごとに、VOICE ⇒ AM ⇒FM⇒MP3⇒VOICE の順に切り替わります。



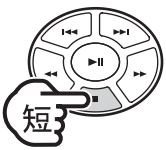
2 ●/II ボタンを押して録音を開始します。
録音インジケーターが赤く点灯します。画面左の番号は、ファイル番号を表します。



3 録音を一時停止するときは●/II ボタンを押します。
録音を再開するときはもう一度●/II ボタンを押します。

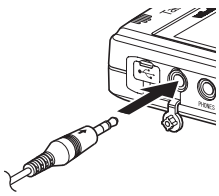


4 録音を終了するときは■ ボタンを押します。
録音インジケーターが消灯します。

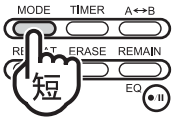


外部マイクを使用した録音方法

1 外部マイク端子に市販のマイクを接続します。
※3.5mmジャックタイプをご使用ください。



2 MODEボタンを押してVOICEモードを選択します。
ボタンを押すごとに、VOICE⇒AM⇒FM⇒MP3⇒VOICEの順に切り替わります。

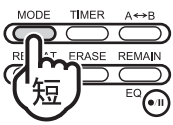


3 以降の手順については『内蔵マイクを使用した録音方法』(P.38)の手順3以降を参照してください。

タイマー録音

音声をタイマー録音するときも、ラジオをタイマー録音するときと同様の設定手順を行ないます。

1 電源を入れ、MODEボタンでVOICEモードを選択します。
ボタンを押すごとに、VOICE⇒AM⇒FM⇒MP3⇒VOICEの順に切り替わります。



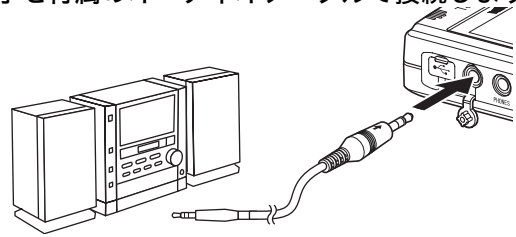
2 以降の手順については『タイマー録音を設定する』(P.28)の手順3以降を参照してください。

外部機器からトークマスターに録音する

お手持ちの教材（CD-ROM、カセットテープ）は、ラジカセ等の外部機器を使用して本機に録音することができます。
録音されたデータは、録音した順番にファイル番号が付けられます。

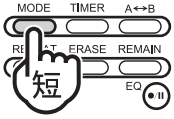
※ 外部機器に3.5mmタイプのイヤホン端子（外部出力端子）が必要です。
※ 本機と外部機器の接続は、すべての電源をOFFにして行ってください。
※ 接続の際には、外部機器の取扱説明書をよく読み、その内容を十分に理解した上で 行ってください。
※ 外部機器側の音量は、事前にテストを行い、適切な音量に調整してください。
※ ファイル番号が99を超えての録音はできません。

1 ラジカセ等のイヤホン端子（外部出力端子）と本機の外部マイク端子を付属のオーディオケーブルで接続します。



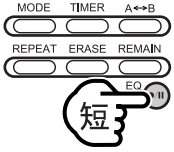
2 MODEボタンを押してVOICEモードを選択します。

ボタンを押すごとに、VOICE ⇒ AM ⇒FM⇒MP3⇒VOICEの順に切り替わります。

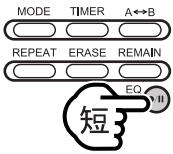


3 ●/II ボタンを押して録音を開始します。

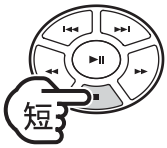
録音インジケーターが赤く点灯します。画面左の番号は、ファイル番号を表します。



4 録音を一時停止するときは●/IIボタンを押します。
録音を再開するときはもう一度●/II ボタンを押します。



5 録音を終了するときは■ボタンを押します。
録音インジケーターが消灯します。

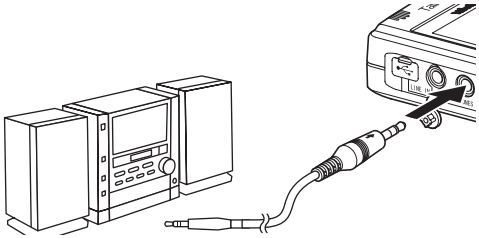


トークマスターから外部機器に録音する

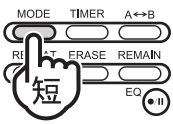
本機に録音された音源は、外部機器を使用してカセットテープなどに録音することができます。

※ 外部機器に3.5mmタイプの外部入力端子（マイク端子など）が必要です。
※ 本機と外部機器の接続は、すべての電源をOFFにして行ってください。
※ 接続の際には、外部機器の取扱説明書をよく読み、その内容を十分に理解した上で 行ってください。

1 本機のイヤホン端子と、ラジカセ等の外部入力端子（マイク端子など）を付属のオーディオケーブルで接続します。



2 MODEボタンを押してVOICEモードを選択します。
ボタンを押すごとに、VOICE⇒AM⇒FM⇒MP3⇒VOICEの順に切り替わります。



3 ラジカセ等で録音を開始します。

4 本機の ▶II ボタンを押します。

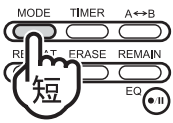
5 録音を終了するときは、ラジカセ等の録音を停止し、本機の ■ ボタンを押します。

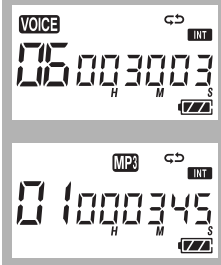
録音したデータやMP3、WMAファイルを再生する

ラジオや音声を録音したデータはすべて、本機のVOICEモードへ録音した順番に保存され、01 ～ 99 までのファイル番号が付けられます。
パソコンからダウンロードしたMP3やWMAファイルは、MP3モードへダウンロードした順番に保存され、01 ～ 99 までのファイル番号が付けられます。
なお、本機には、お買い上げいただいたときからサンプルとしてMP3 ファイルが内蔵されています。
サンプルファイルが不要な場合は削除してください。削除していただければ録音容量が増加します。(『録音ファイルを消去する』P.50参照)

ファイルを再生・一時停止・停止する

1 **録音したデータを再生する場合は、MODEボタンでVOICEモードを選択します。**
MP3、WMAファイルを再生する場合は、MODEボタンでMP3モードを選択します。
ボタンを押すごとに、VOICE ⇒ AM ⇒FM⇒MP3⇒VOICEの順に切り替わります。





2 **I◀◀ボタンまたは▶▶Iボタンで、聞きたいファイル番号を選択します。**
録音したデータがない場合は「NO.IF」と表示されます。

録音したデータや MP3、WMA ファイルを再生する（続き）

3 ▶‖ ボタンを押して再生します。

適切な音量でお楽しみください。

4 一時停止するときは ▶‖ ボタンを押します。

※解除するときはもう一度 ▶‖ ボタンを押します。

※一時停止状態で 5 分間経過すると停止状態になり、さらに 3 分後に電源が自動的に切れます。

5 停止するときは ■ ボタンを押します。

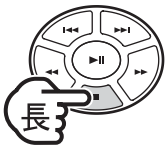
※WMA、MP3 ファイルが再生できない場合は『本機の動作が不安定（本体でフォーマットを行う方法）』（P.102）を参照してください。

レジューム機能について

レジューム機能とは:
再生途中でいったん電源を切り、再び電源を入れたときに、前回の続きから再生を始める機能です。続きを聴くのに便利です。

1 録音したデータを VOICE モードで再生します。

2 再生中に、■ ボタンを長押しして電源を切ります。
►II ボタンを押して一時停止してから電源を切っても構いません。



3 ►II ボタンを長押しして電源を入れると前回電源を切ったところから再生します。
適切な音量でお楽しみください。

録音したデータや MP3、WMA ファイルを再生する（続き）

早送り／早戻しをする

1 早送りをするときは ►► ボタンを押します。早戻しをするときは ◄◄ ボタンを押します。

早送り／早戻し操作を行うと、キュルキュル音が聞こえます。

ただし、WMAファイルは早送り／早戻ししてもキュルキュル音は聞こえません。

再生ボタンまたは停止ボタンを押すと早送り／早戻しを停止します。

早送り終了後は次のファイルが表示されます。

再生中に早送り／早戻しする

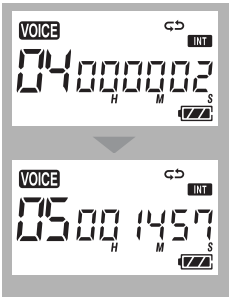
再生中に早送り／早戻し操作を行うと、10倍速で送られます。

停止状態で早送り／早戻しする

停止状態で早送り／早戻し操作を行うと、100倍速で送られます。

ファイル送り／戻しをする

1 ファイル送りをするときは ►►I ボタンを押します。ファイル戻しをするときは I◄◄ ボタンを押します。



再生中にファイル送り／ファイル戻しをする

再生中にファイル送り操作を行うと次のファイルを再生します。

再生中にファイル戻し操作を行うと、ファイルの先頭から５秒未満のときは前のファイルを再生します。ファイルの先頭から５秒以上後のときは今のファイルを先頭から再生します。

停止状態でファイル送り／戻しをする

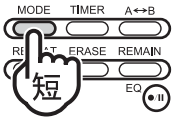
停止状態でファイル送り／戻し操作を行うと、表示のファイルが１つづつ移動してファイルの内容を表示します。

リピートモードを設定する

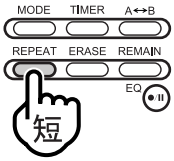
リピートモードの設定では以下の４パターンで再生することができます。
①１ファイルのみを繰り返し再生
②１ファイルのみを１回再生
③全ファイルを繰り返し再生
④全ファイルを１回再生

リピートモードを設定する

1 MODE ボタンで VOICE モードまたは MP3 モードを選択します。
ボタンを押すごとに,VOICE⇒AM⇒FM⇒MP3⇒VOICE　の順に切り替わります。



2 REPEATボタンを押します。
リピートモードが変化します。それぞれの設定については下記を参照してください。
この操作は再生中／停止時のいずれにもおこなうことができます。



画面表示	意味	内容
↻	全ファイル１回再生	すべてのファイルを１回再生し、停止します。
↻1	１ファイル一回再生	１ファイルのみを１回再生し、停止します。
1↻	１ファイル繰り返し再生	１ファイルのみを停止操作をするまで繰り返し再生します。
↻	全ファイル繰り返し再生	すべてのファイルを停止操作をするまで繰り返し再生します。

区間再生を設定する

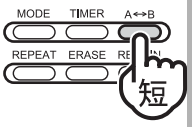
VOICEモード、MP3モードの再生中に区間再生を設定すると、ファイル内の特定の部分だけを繰り返して再生することができます。

区間再生を設定する

1 MP3 モード、または VOICE モードで ▶II ボタンを押してファイルを再生します。

2 区間再生の開始ポイントで A-B ボタンを押します。

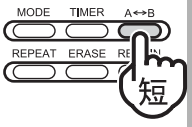
A-B表示が点滅します。



3 区間再生の終了ポイントで A-B ボタンを押します。

A-B表示が点灯し、区間再生を開始します。

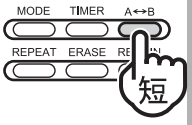
開始ポイントと終了ポイントの間は3秒以上空けてください。



4 区間再生を終了するときは、もう一度 A-B ボタンまたは ▶II ボタンを押します。

A-B 表示が消え、通常再生に戻ります。

※早送り／早戻し／停止／ファイル送り／ファイル戻しを押しても区間再生を終了し、それぞれの機能に移ります。

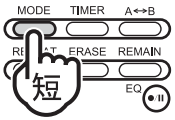


音質を変える

MP3 モードでは再生時の音質を変えることができます。VOICE、AM、FMモードではこの機能は作動しません。

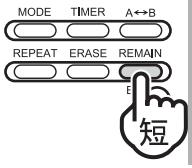
1 MODE ボタンで MP3 モードを選択します。

ボタンを押すごとに,VOICE⇒AM⇒FM⇒MP3⇒VOICE　の順に切り替わります。



2 REMAIN (EQ) ボタンを押します。

押すごとに音質と画面表示が変化します。



画面表示と意味

略表示	意味	内容
NOR	NORMAL	標準的な音質です
CLA	CLASSIC	クラシック音楽に最適な音質です
LIVE	LIVE	ライブに最適な音質です
POP	POPS	ポップスに最適な音質です
ROCK	ROCK	ロックに最適な音質です

※ お好みの音質を選んでください。

録音ファイルを消去する

本機に録音されたファイルや、ダウンロードされたファイルを消去します。メモリーの残りが少なくなってきたときや、ファイルが不要になったときにはこの操作を行ってください。
録音ファイルをひとつづつ消去します。消去しようとするファイルが再生されるので、確認しながら消去することが可能です。

ファイルを消去すると、消去したファイル以下のファイル番号がひとつ繰り上がります。

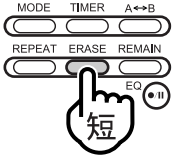
一度消去したファイルは復元できません。

消去中に本機の電源を切ったり、メモリーカードを抜いたりしないでください。

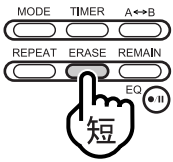
ファイルを1個づつ消去する

1 VOICE モード、または MP3 モードで消去したいファイルを呼び出します。

2 ERASEボタンを押します。
画面に「ERASE」が点滅表示し、確認のために再生されます。



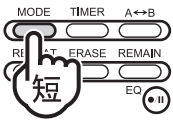
3 画面が点滅している間に、もう一度 ERASE ボタンを押します。



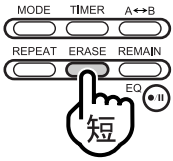
内蔵メモリー、またはメモリーカードのデータを一括で消去します。
消去はモード単位で行うので、VOICE モードのデータを一括消去しても MP3 モードのデータは消去されません。

すべてのデータを一括で消去する

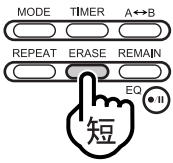
1 VOICE モード、または MP3 モードを選択します。



2 ERASE ボタンを長押しします。
画面に「AL ERASE」が点滅します。



3 画面が点滅している間に、もう一度 ERASE ボタンを押します。
選択したモード内のファイルがすべて消去されます。

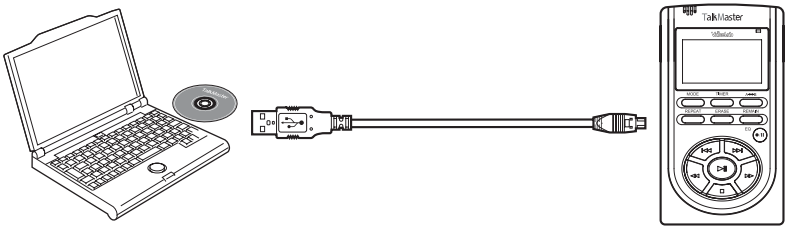


※ 大量のデータを消去するときは、多少時間がかかる場合があります。
※ 動作が不安定な場合は本機をフォーマット(初期化)することができます。『本機の動作が不安定（本体でフォーマットを行う方法)』(P.102）を参照してください。

TM-Explorer について

TM-Explorerでできること

本機に録音されたデータは、付属のUSBケーブルでパソコンと本機間を相互転送でき、パソコン上では付属ソフトの「TM-Explorer」で転送ファイルの整理や保管ができます。



●本機とパソコンを接続してできること

本機で録音したデータをパソコンに取り込みます。
パソコンから本機にデータを取り込みます。
本機の内蔵メモリーやメモリーカードを初期化します。

●パソコン単体で操作できること

パソコン上でデータのファイル名を変更します。
フォルダを作成して、フォルダごとにデータを管理します。
録音データを再生します。
RVF 形式のファイルを WAV 形式に変換します。
WAV 形式のデータを RVF 形式に変換します。
データをメールに添付して送ります。
データ削除します。

TM-Explorer をインストールする

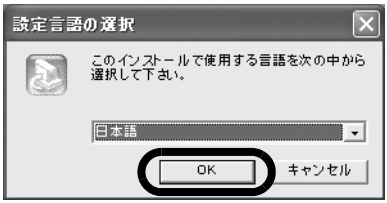
付属のCD-ROMを使用してTM-Explorerをインストールします。
インストールする前には、他のアプリケーションをすべて終了しておいてください。
インストールした後、USBドライバーをパソコンに認識させます。

TM-Explorerのインストール

※ 手順1から5までは各OSで共通の手順です（WindowsXPの画面で説明しますが、お使いのOS、バージョンによって画面は多少異なります）。

1 CD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブに挿入します。
CDが自動で起動します。［設定言語の選択］画面が表示されます。
自動起動しないときはマイコンピュータからCD-ROM:￥setup.exeをダブルクリックしてください。

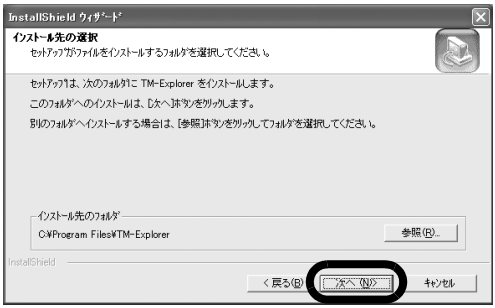
2 ［日本語］を選択し、［OK］をクリックします。



3 ［次へ］をクリックします。

TM-Explorer をインストールする（続き）

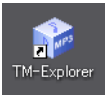
4 **インストール先を確認して、よければ［次へ］をクリックします。**
インストールが開始されます。



5 **［はい、今すぐコンピュータを再起動します］が表示されたときは、チェックを入れて、［完了］をクリックします。**
※再起動のメッセージはOS、バージョンによって表示されないときがあります。

以上でTM-Explorerのインストールが完了しました。

※ インストールが完了すると、デスクトップに TM-Explorer のアイコンが表示され（下図）、スタートメニューにTM-Explorerが追加されます。



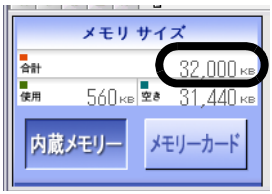
USB ドライバーをインストールする

次に、USBドライバーのインストールを行います。
TM-Explorer をパソコンにインストールしたら、以下の手順に従って USB ドライバーの組み込みを行ってください。
ドライバーが正しく組みこまれていないと、パソコンが本機を認識しません。

- 接続しても「トークマスターを接続してください」の表示が消えないときや画面にメモリーサイズの合計が表示されないときは、本機とパソコンの接続を確認してください。
- 接続に問題がないときは、USB ドライバーをパソコンが認識していない場合があります。また、Windows2000 の一部のバージョンではドライバのインストールが正しく行えない場合があります。このときは『USB ドライバーの再インストール』(P.86) を参照してください。
- 以降のドライバーインストール手順でインストール要求画面が出ず、パソコンがトークマスターを認識しない場合は『USB ドライバーの再インストール』(P.86) を参照してドライバーのインストールを行ってください。

※ お使いのパソコンの設定によっては、USB ドライバーのインストール作業を行わなくてもパソコンが本機を認識してしまうことがあります。この場合は、USB ドライバーが正しく設定されていないので、USB ドライバーを正しく指定する必要があります。

- ドライバーの組み込み完了後、TM-Explorer を起動して、画面左下のメモリーサイズに、32,000KB の表示を確認します。



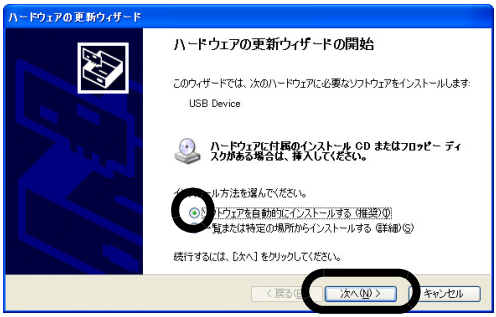
ドライバーのインストール手順
WindowsXP…P.56 へ。
Windows2000…P.60 へ。
WindowsMe…P.61 へ。
Windows98/98SE…P.62 へ。

USBドライバーをインストールする（続き）

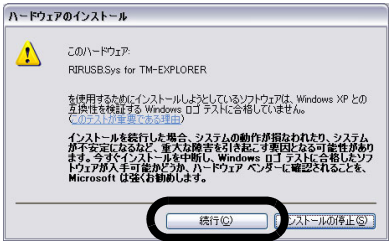
USBドライバーのインストール（WindowsXP）

1 付属のUSBケーブルで本機とパソコンを接続します。
画面右下に［新しいハードウェアが見つかりました」が表示されます。
「新しいハードウェアの検索ウィザードの開始」を行います。
※（TM-ExplorerのCD-ROMがCD-ROMドライブに入っていること）

2「ソフトウェアを自動的にインストールする（推奨）」にチェックを入れ、［次へ］をクリックします。



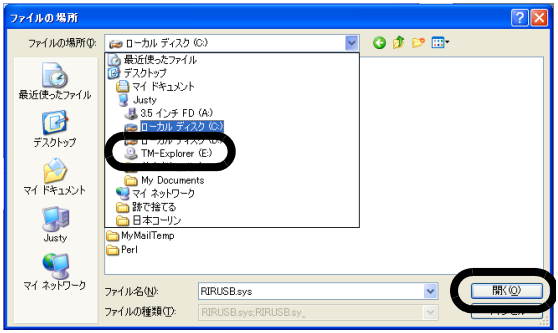
3［続行］をクリックします。
警告が出ますが問題ありません。



4 [OK] をクリックします。

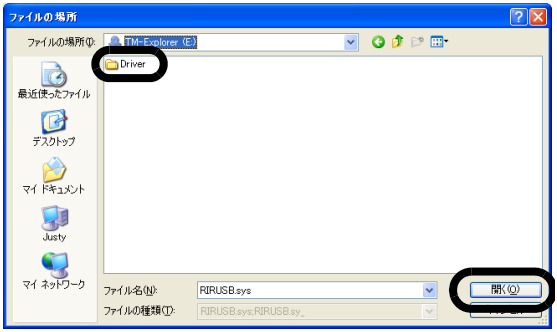
5 [参照] をクリックします。
[ファイルの場所] という新しいウインドウが開くので、USB ドライバーがある場所を指定します。

6 [CD-ROMのドライブ] を選択して [開く] をクリックします。
[開く] をクリックしなくても自動的に次へ進む場合もあります。

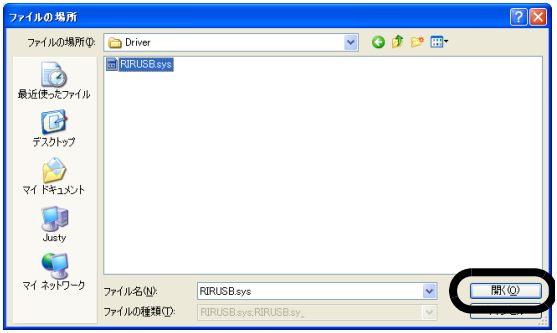


USB ドライバーをインストールする（続き）

7 [Driver] を選択して［開く］をクリックします。
［開く］をクリックしなくても自動的に次へ進む場合もあります。

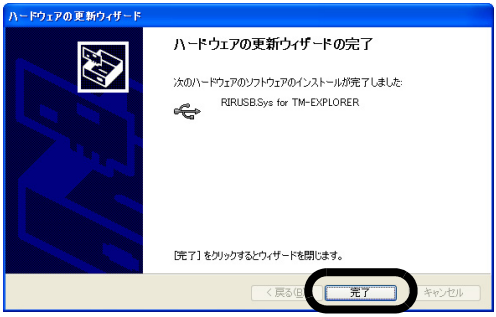


8 [RIRUSB.sys] を選択して［開く］をクリックします。



9 [OK] をクリックします。
USB ドライバーのインストールが開始されます。
（コピー元にはドライブ名￥Driver が表示されています）

10 ［完了］をクリックします。
パソコンが再起動します。



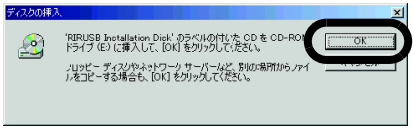
USBドライバーをインストールする（続き）

USBドライバーのインストール（Windows2000）

1 付属のUSBケーブルで本機とパソコンを接続します。
※（TM-ExplorerのCD-ROMがCD-ROMドライブに入っていること）

2 [CD-ROMのドライブ] - [Driver] - [RIRUSB.sys] を選択し、[開く] をクリックします。

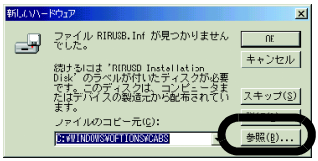
3 [OK] をクリックします。
USBドライバーのインストールが開始されます。
（コピー元にはドライブ名¥Driverが表示されています）



USBドライバーのインストール（WindowsMe）

1 付属のUSBケーブルで本機とパソコンを接続します。
（TM-ExplorerのCD-ROMがCD-ROMドライブに入っていること）

2 ［参照］をクリックします。



3 ［CD-ROMのドライブ］-［Driver］-［RIRUSB.sys］を選択し、［OK］をクリックします。
新しいハードウェアの追加ウィザード画面に移ります。

4 ［OK］をクリックします。
USBドライバーのインストールが開始されます。
（コピー元にはドライブ名¥Driverが表示されています）

USB ドライバーをインストールする（続き）

USBドライバーのインストール（Windows98/98SE）

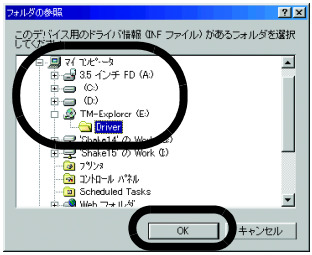
1 付属のUSBケーブルで本機とパソコンを接続します。
（TM-ExplorerのCD-ROMがCD-ROMドライブに入っていること）

2 ［次へ］をクリックします。

3 ［次へ］をクリックします。

4 ［参照］をクリックしします。

5 [CD-ROMのドライブ] - [Driver] を選択し、[OK] をクリックします。
「開く」をクリックしなくても自動的に次へ進む場合もあります。
新しいハードウェアの追加ウィザード画面に戻ります。



6 [次へ] をクリックします。

7 [次へ] をクリックします。
USBドライバーのインストールが開始されます。
（コピー元にはドライブ名¥Driverが表示されています）

USB ドライバーをインストールする（続き）

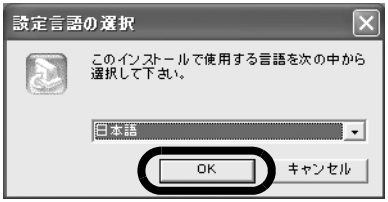
8 ［完了］をクリックします。
パソコンが再起動します。

TM-Explorer をパソコンから削除する

TM-Explorerの動きがおかしいときや、必要がなくなったときには、TM-Explorerをパソコンから削除します。
この画面からは、TM-Explorer の再インストールや、インストールのカスタム設定も可能です。

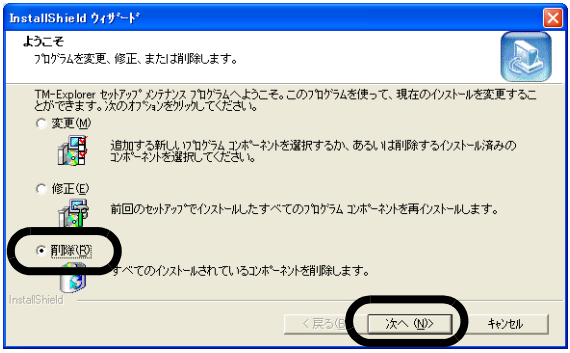
1 付属のCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブに挿入します。

2「日本語」を選択し、［OK］をクリックします。



3［OK］をクリックします。

4［削除］にチェックを入れ，［次へ］をクリックします。



TM-Explorer をパソコンから削除する（続き）

5 ［OK］をクリックします。

アンインストールが開始されます。

6 ［完了］をクリックします。

アンインストールが完了しました。画面を閉じ、CD-ROMを取り出してください。

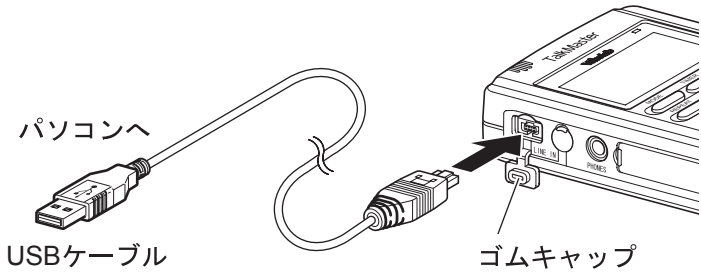
※［読取専用ファイルを検出］ウインドウが表示された場合は、［はい］を選択してください。

パソコンと接続する／取り外す

本機とパソコンの接続には付属のUSBケーブルを使用します。

パソコンとの接続

1 本機左側面部にあるUSBポートのゴムキャップを開け、USBケーブルを差し込みます。



※差し込む方向を間違えないでください。

※トークマスターには電池が入っていてもいなくてもどちらでも結構です。

2 USB ケーブルのもう一方をパソコンの USB ポートに差し込みます。

※本機の画面に「USB」と表示されます。

※パソコンと本機を初めて接続する場合はドライバーの組み込みから行ってください。（『TM-Explorerをインストールする』P.53参照）

パソコンからの取り外し

パソコンからUSBケーブルを取り外します。

※データの転送中は絶対にケーブルを取り外さないでください。

※データ転送中以外であればトークマスターの起動中でも取り外すことが可能です。

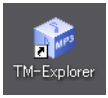
※パソコンで［ハードウェアの取外し］を設定する必要はありません。

※取り外すときは、コネクター部を持ち、コードを引っ張らないでください。
断線するおそれがあります。

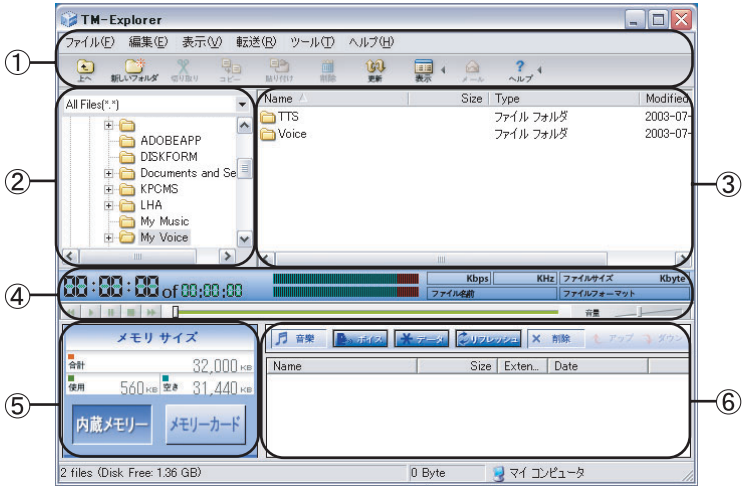
TM-Explorer を起動する

1 TM-Explorerを起動します。

デスクトップ上のアイコンをダブルクリックするか、スタートメニューからTM-Explorerを選択します。



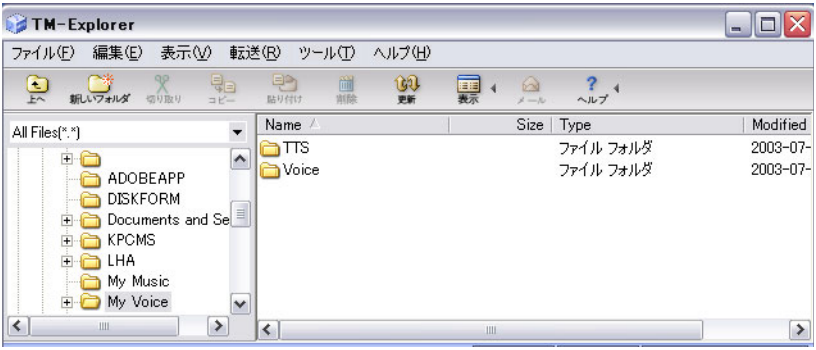
TM-Explorerの画面について



パソコン	①	メニューバー	TM − EXPLORER の設定、パソコン内やトークマスター内のファイルの表示方法、ファイルの変換などを切り替えます。
	②	パソコン内フォルダ階層表示	パソコン内のフォルダ階層を表示します。
	③	パソコン内フォルダ内容表示	左画面で階層表示したフォルダの内容を表示します。
	④	ファイル再生部	パソコン内のファイルを再生します。
トークマスター	⑤	トークマスターメモリー情報表示	トークマスター内のメモリー残量表示、表示するメモリーの切り替えを行います。
	⑥	トークマスターファイル内容表示	トークマスター内のファイルを表示します。

パソコン側の表示について

画面の上部はパソコン側の内容を表示します。
Windows の Explorer に近い画面構成の左ウインドウ部にはパソコン内のフォルダの階層を表示します。右ウインドウ部に左ウインドウ部で選択したフォルダの内容を表示します。



メニュー		アイコン	意　味
ファイル	RVF から WAV へ	–	RVF ファイル (録音データ) を WAV 形式に変換します。(パソコン側のみ有効)
	WAV から RVF へ	–	WAV ファイルを RVF 形式に変換します。(パソコン側のみ有効)
	フラッシュメモリー フォーマット	–	トークマスターのメモリーを初期化します。
	ニューフォルダー		パソコンの現在表示しているフォルダに新しいフォルダを作成します。
	終了	–	TM-Explorer を終了します。
編集	切り取り		選択したファイルを切り取ります。
	コピー		選択したファイルをコピーします。
	貼り付け		コピー、切り取りしたファイルを貼りつけます。
	削除		選択したファイルを削除します。
表示	大きいアイコン	–	フォルダ内を大きいアイコンで表示します。
	小さいアイコン	–	フォルダ内を小さいアイコンで表示します。
	一覧	–	フォルダ内のファイルを一覧表示します

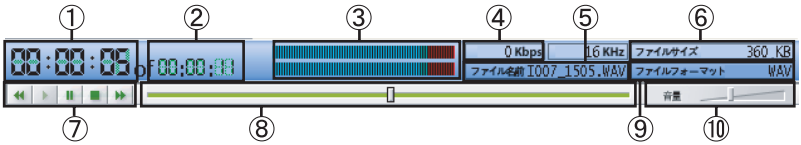
TM-Explorer を起動する（続き）

表示	詳細	–	ファイルの詳細情報を表示します。
	リフレッシュ		フォルダ内を最新情報に更新します。
転送	フラッシュメモリーへ	–	パソコンからトークマスターへ転送します。
	コンピュータへ	–	トークマスターからパソコンへファイルを転送します。
	メールへ		メールソフトが起動し、選択したファイルを添付ファイルとします。
ツール	ファイルとフォルダ検索	–	ファイル名、フォルダ名で検索を行います。
ヘルプ	ヘルプ		操作説明のヘルプを表示します。
	バージョン情報	–	TM-Explorer とトークマスターのバージョンを表示します。
上へ			現在表示しているフォルダのひとつ上の階層を表示します。

再生部の表示について

この画面でパソコン内のデータを再生します。ファイルの各種情報が表示され、再生中はスクロールバーが動きます。

トークマスターのデータは直接ここで再生することはできません。いったんパソコンにデータを転送して、パソコン側から操作してください。



①	経過時間	再生中の時間経過を表示します。
②	合計時間	ファイルの合計時間を表示します。
③	グラフィックイコライザ	音声レベルをグラフィック表示します。
④	録音ビットレート	録音ビットレートを表示します。(MP3 モードのみ)
⑤	ファイル名	再生中のファイル名を表示します。
⑥	ファイル容量	ファイルの容量を表示します。
⑦	操作ボタン	再生などの操作を行います。
⑧	スクロールバー	ファイル再生位置を、バーが動きながら表示します。任意の位置をクリックする、またはバーをドラッグすると再生位置が変わります。
⑨	ファイル形式	データの保存形式を表示します。
⑩	ボリュームバー	再生時の音量を調節します。

トークマスター側の表示について

TM-Explorerの下部はトークマスターの内容とメモリーの状態を表示します。

トークマスターを接続しても何も表示されないときは、接続を確認してください。

リフレッシュ	リフレッシュ（再読み込み）	トークマスターの内容を再び読み取り、新しい内容情報に更新します。
ダウン	ダウン（トークマスターへ転送）	パソコンからトークマスターへデータを取り込みます。
アップ	アップ（パソコンへ転送）	トークマスターからパソコンへデータを転送します。
音楽	音楽フォルダ表示	トークマスター内の MP3、WMA ファイルを表示します。
ボイス	ボイスフォルダ表示	トークマスター内の音声ファイル（RVF 形式）を表示します。
データ	データフォルダ表示	ストレージメディアとして利用するときに、データを表示します。ファイルの形式は問いません。
削除	データ削除	トークマスター内の選択したファイルを削除します。
内蔵メモリー	内蔵メモリー表示	トークマスター内蔵のフラッシュメモリーの内容を表示します。
メモリーカード	メモリーカード表示	トークマスターに差し込まれているメモリーカードの内容を表示します。

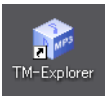
録音データをパソコンに保存する

ファイルを転送する

本機に録音されたファイルはTM－EXPLORERで相互転送でき、パソコン上で整理や保存ができます。

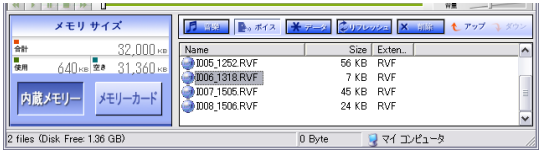
1 パソコンと本機をUSBケーブルで接続します。

2 TM-Explorerを起動します。
デスクトップ上のアイコンをダブルクリックするか、スタートメニューからTM-Explorerを選択します。



3 パソコン側の保存先フォルダを選びます。
フォルダを選ぶ方法は2通りあります。
1　左側の階層表示画面で表示させたいフォルダをダブルクリックするか、＋をクリックします。
2　右側のフォルダ内表示画面でフォルダをダブルクリックします。

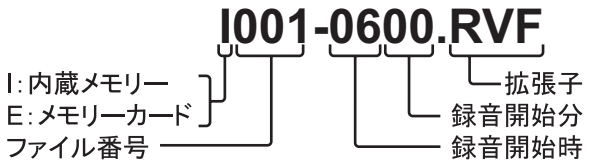
4 本機側のフォルダー覧からアップロードしたいファイルを選択します。
1）内蔵メモリーまたはメモリーカードから、メモリー領域を選択します。
2）音楽･ボイス･データの中からデータが保存されているフォルダを選択します。
※ドラッグアンドドロップ（マウスで選択したまま移動してコピー）はできません。
※パソコンからダウンロードしたMP3ファイルはアップロードできません。



5「アップ」ボタンをクリックします。
本機から録音データがパソコンに転送されます。

自動的に付けられるファイル名の意味

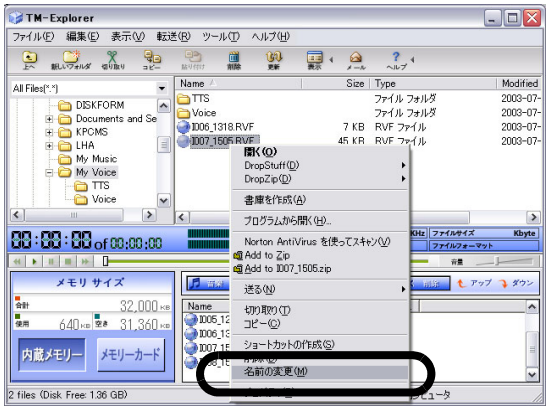
本機で録音したデータには、自動的にファイル名がつけられます。ファイル名は本機に表示されませんが、パソコン上で確認することができます。



ファイル名を変更する

わかりやすいファイル名に変更してパソコンで整理しておくと便利です。

1 パソコン側の、名前を変更するファイルの上で右クリックし、「名前の変更（M）」を選択します。



2 新しいファイル名を入力します。

マイクロソフトエクスプローラーでも、ファイル名の変更ができます。同様の操作でフォルダ名を変更することもできます。

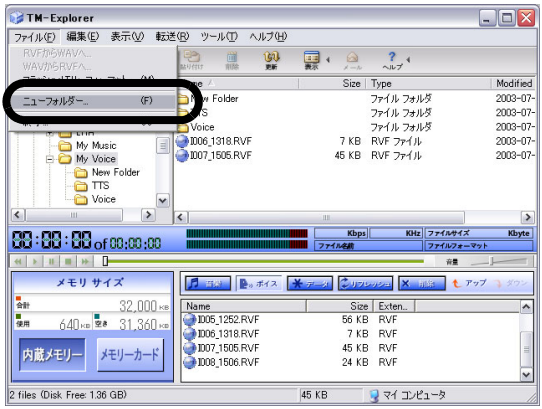
録音データをパソコンに保存する（続き）

新しいフォルダを作成する

番組の種類別など、フォルダを作ってファイルを管理すると便利です。

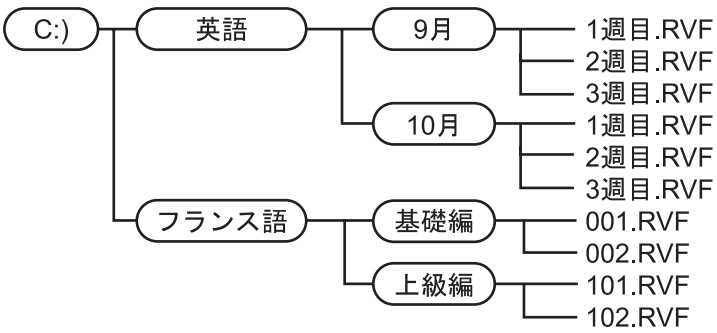
1 メニューバーより［ファイル］－［ニューフォルダー］を選択します。

※現在開いている階層に、「NewFolder」というフォルダが作成されます。
※メニューバー下の［新しいフォルダ］をクリックしてもフォルダが作成されます。



2 「ファイル名を変更する」（前ページ）と同様に、フォルダの名前を変更します。

《整理･保存フォルダの例》



ファイルを本機にダウンロードする

パソコンからデータ（ファイル）を本機に取り込みます。取りこむファイル形式に応じて取り込み先が異なります。

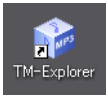
トークマスターのフォルダ	対応ファイル形式
［音楽］フォルダ（MP3 モード）	MP3、WMA
［ボイス］フォルダ（VOICE モード）	RVF（録音したデータ）
［データ］フォルダ	MP3、WMA、RVF 以外の形式

※ フォルダを取り込むことはできません。
※ 取り込み点数が各フォルダで100点以上は取り込むことができません。
※ 各フォルダの合計がメモリーの容量を超えて取り込むことはできません。
※ 取り込んだ［データ］フォルダのファイルは本機で表示･再生・削除等はできません。

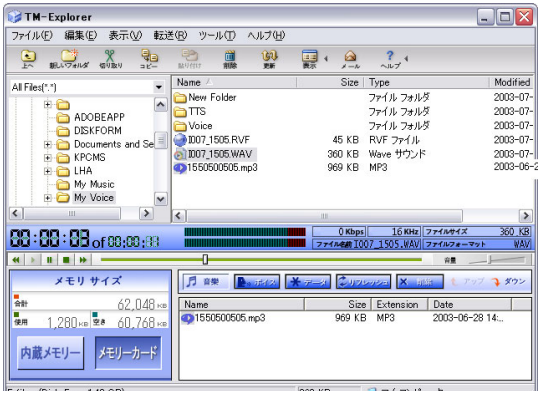
1 パソコンと本機をUSBケーブルで接続します。

2 TM-Explorerを起動します。

デスクトップ上のアイコンをダブルクリックするか、スタートメニューからTM-Explorerを選択します。



3 パソコン側のフォルダー一覧から取り込みたいファイルを選択します。

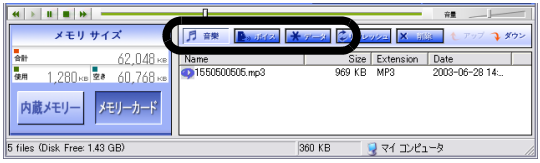


ファイルを本機にダウンロードする（続き）

4 本機側の保存領域を選択します。

保存先のフォルダを表示させておきます。
まず、内蔵メモリー、メモリーカードのいずれかから選択します。

次に、［音楽］［ボイス］［データ］より保存先のフォルダを選択します。



5 「ダウン」ボタンをクリックします。

パソコンからファイルが本機に転送されます。

CD-ROM等のデータをWMAに変換してから本機にダウンロードする

お手持ちのCD-ROM教材を「Windows Media Player 9 Series」（無料ダウンロードソフト）でWMA形式に変換してトークマスターに転送すれば、アナログ録音よりも高音質で聞くことができます。
(メディアプレーヤーおよび音楽CDに関しての苦情･お問い合わせは弊社では対応できませんのでご了承ください。)

1 「Windows Media Player 9 Series」をマイクロソフトのWEBサイトから取得します。

インターネットアドレス
http://www.microsoft.com/japan/windows/default.mspx

2 「Windows Media Player 9 Series」で、CD-ROMのデータをWMAに変換してパソコンに保存します。

（「CDから録音」ボタンを使って行いますが、詳細な使用方法は同ソフトのヘルプをご参照ください）
※Windows Media Playerは9Seriesをお使いください。
※Windows Media Player9SeriesでWMAファイルを作成できない場合は本機へ転送できません。

3 作成したWMAファイルをTM-Explorerで本機の「音楽」領域へダウンロードします。

本機では、MP3モードで再生します。

※他の市販ソフトでも、Windows Media Playerと同様にしてMP3に変換したファイルを本機に転送して聞くことが可能です。
※コピー防止機能が入ったCD-ROMはWMA形式のファイルに変換できない場合があります。
※作成したWMAファイルが再生できない場合
→『WMAファイルを再生できない』（P.102）を参照してください。
※ファイルサイズが大きい場合、録音時間残量が大幅に減少しますので、このような使い方の時にはメモリーカードの使用をお勧めします。

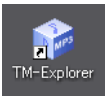
パソコンでデータを再生する

パソコンに転送したデータはTM-Explorerで簡単に再生することができます。

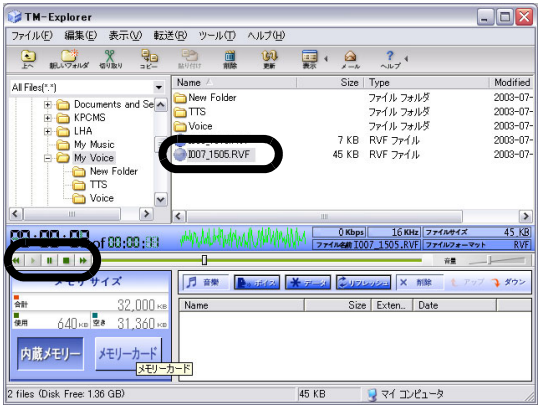
※ トークマスターとパソコンを USB ケーブルで接続しても、トークマスター内のデータを TM-Explorer で直接再生することはできません。いったんパソコンに転送してから再生してください。
※ 使用していないアプリケーションは終了してください。
特に、他の音楽再生ソフトは同時に起動しないでください。
※ TM-Explorerではwma形式のファイルを再生することはできません。

1 TM-Explorerを起動します。

デスクトップ上のアイコンをダブルクリックするか、スタートメニューからTM-Explorerを選択します。



2 再生したいファイルを選択し、再生ボタンをクリックします。



ボタン表示	機能の説明
◀◀	再生中のファイルを巻戻します。
▶	ファイルを再生します。
❚❚	再生中のファイルを一時停止します。
■	再生を停止します。
▶▶	再生中のファイルを早送りします。

録音したファイル形式を変換する

TM - EXPLORERで、録音したRVF形式のファイルを一般的な音楽再生ソフトで再生可能な形式の、WAV形式に変換します。

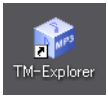
録音ファイルは本機独自の圧縮方式（RVF形式）ですので、このファイル形式のままではトークマスター以外の市販のアプリケーションなどで再生することができません。

※ RVF形式からWAV形式に変換するとファイル容量は大きくなります。

※ TM－EXPLORERには録音ファイルを編集（分割・合成・音質操作）する機能はありません。

1 **TM-Explorerを起動します。**

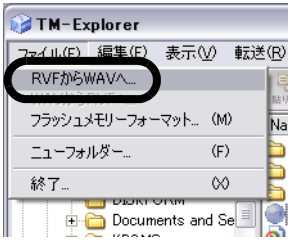
デスクトップ上のアイコンをダブルクリックするか、スタートメニューからTM-Explorerを選択します。



2 **変換したいファイルを選択します。**

3 **［ファイル］－［RVFからWAVへ］を選択します。**

同じフォルダ内に同名のWAVファイルが生成されます。



WAV形式に変換後は、簡単なファイル変換、ファイル分割程度であれば、Windows標準添付ソフトの「サウンドレコーダー」でもできます。

サウンドレコーダーの場所：

［スタートメニュー］－［すべてのプログラム］－［アクセサリー］－［エンターテイメント］－［サウンドレコーダー］

※ 他社ソフトウェアに関するサポートは当社では対象外ですので、直接それぞれのメーカー様にお問合せください。

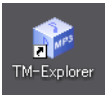
ファイルの削除

TM-Explorerでパソコン上やトークマスター内のデータを削除します。

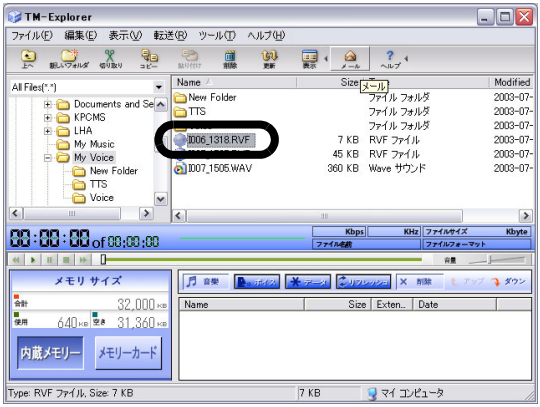
パソコン内のデータを削除する

1 TM-Explorerを起動します。

デスクトップ上のアイコンをダブルクリックするか、スタートメニューからTM-Explorerを選択します。



2 削除したいファイルを選択します。



3 ［編集］－［削除］を選択します。

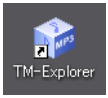
メニューバーにある［削除］のアイコンをクリックしても同様に削除できます。

選択したファイルが削除されます。

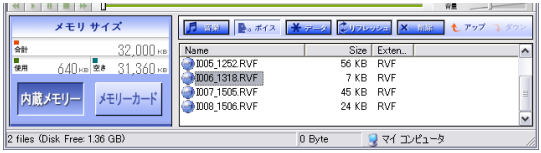
削除されたファイルは復元できません。

トークマスター内のデータを削除する

1 TM-Explorerを起動します。
デスクトップ上のアイコンをダブルクリックするか、スタートメニューからTM-Explorerを選択します。



2 本機側のフォルダー一覧から削除したいファイルを選択します。
1）内蔵メモリーまたはメモリーカードから、メモリー領域を選択します。
2）音楽・ボイス・データの中からデータが保存されているフォルダを選択します。



3 削除ボタンをクリックします。

内部メモリーを初期化する

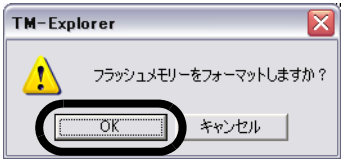
TM-Explorerを使用して、本機の内蔵メモリーやメモリーカードを初期化（すべての録音データ、音楽ファイルを消去する）できます。
ただしラジオのチャンネル、タイマー録音の設定、時計の設定は残ります。

1 [ファイル] ー [フラッシュメモリーフォーマット] を選択します。

「フラッシュメモリーをフォーマットしますか？」というウィンドウが表示されます

2 [OK] をクリックします。

初期化中は［フォーマット中］のウィンドウが表示され、完了するとウィンドウが消えます。



※ トークマスター本体で行なう場合は、『故障かなと思ったら』（P.96）を参照してください。

その他の機能

メール送信

TM-Explorerでは、お使いのメールソフトに選択したファイルを添付してメールを送信することが簡単にできます。

1 添付するファイルを選択します。

2 メニューバーの「メール」をクリックします。

3 メールソフトが起動して、添付ファイルに選択したファイルが指定されます。

※ この機能はインターネット通信が使用可能な環境でのみ動作します。

メモリーカードについて

使用できるメモリーカード

本機で使用できるメモリーカードは、SD メモリーカードと MMC カードです。
ほかのメモリーカード（コンパクトフラッシュ、メモリースティック、スマートメディアなど）は使用できません。

●最大 256MB までのメモリーカードがご使用いただけます。
録音時間は標準音質モードで 1 時間につき約 8MB 使用しますので、256MB の場合は約 32 時間の録音が可能です。

●メモリーカードは 32MB、64MB、128MB、256MB など数種類が販売されています。
必要な容量のメモリーカードをお選びいただき、家電量販店などでお求めください。

※ メモリーカードのメーカー／容量により特性が異なり、受信状態の悪いときにラジオを録音すると本体ノイズが録音されることがあります。この場合は、より受信状態のよい場所に設置するか、本体内蔵メモリーをご使用ください。
FM放送の場合は、付属のFMケーブルアンテナのご使用をお試しください。

※ 比較的適性のよいメモリーカードは当社ホームページまたは当社までご確認ください。
(0120－501355又は0587－55－9800までお問い合わせください)

※ 他の機器で使用していたメモリーカードは、フォーマット方式の違いにより使えない場合があります。

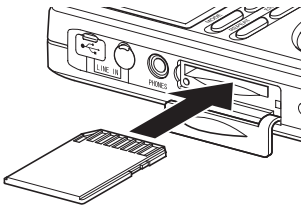
メモリーカードの取り扱いについて

メモリーカードの取り扱いについてはご使用になるメモリーカードの取扱説明書を参照してください。

※メモリーカードの抜き差しを行うときは、電源がOFFの状態で行ってください。録音・再生中に抜差しをすると、メモリーカード内のデータが消えることがあります。

メモリーカードを装着する

1 本体左側面のメモリーカード挿入口のふたを開けます。



2 メモリーカードの裏側を上にして（ラベル面が下向き）、メモリーカードを挿入します。

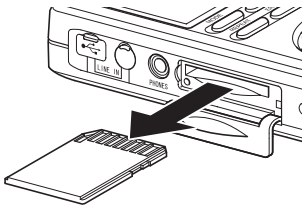
※カチッと音がするまで確実に差し込んでください。

※入りにくいときは無理に入れずにメモリーカードの向きを確認してください。

3 メモリーカード挿入口のふたを閉めます。

メモリーカードを取り外す

1 本体左側面のメモリーカード挿入口のふたを開けます。



2 メモリーカードを指で押しこむとカチッと音がしてカードが半分程度出てきますので、カードを引き抜いてください。

※カードを指で押す前に無理に引っ張らないでください。

3 メモリーカード挿入口のふたを閉めます。

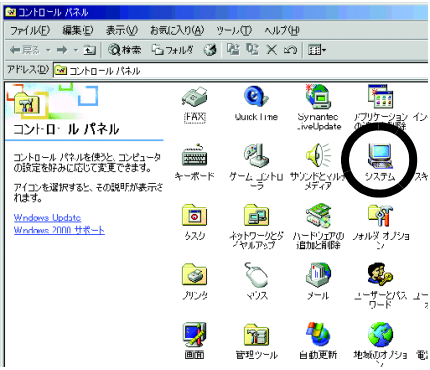
USBドライバーの再インストール

インストールが完了して、トークマスターを接続した時に、「Talk Masterを接続してください」というメッセージが消えず、パソコンがトークマスターを認識していないと思われる場合は、下記の手順でUSBドライバーの再インストールをお試しください。

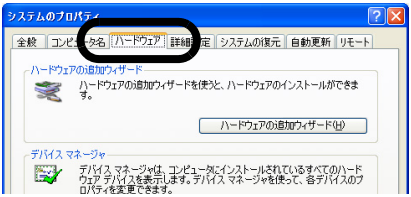
1 [スタートメニュー] − [設定] − [コントロールパネル] − [システム] を開きます。

WindowsXP の画面例

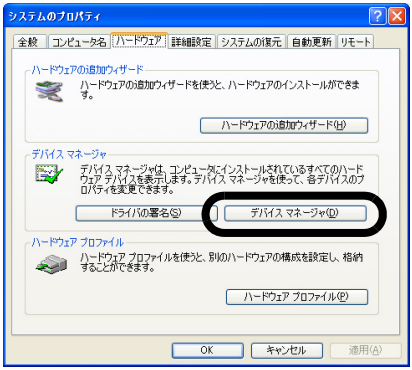
Windows2000 の画面例



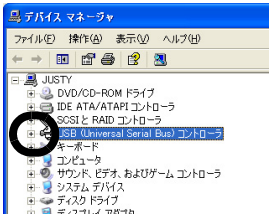
2「ハードウェア」のタブをクリックします。



3「デバイスマネージャ」をクリックします。



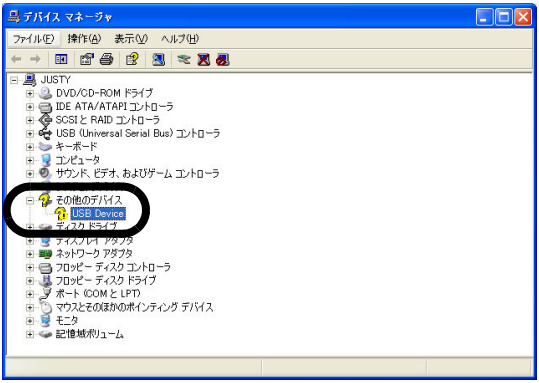
4「USB（Universal Serial Bus）コントローラー」の左の「＋」をクリックします。



USB ドライバーの再インストール（続き）

5 本機を付属のUSBケーブルで接続します。

下図のように黄色の「？」マークと「USB Device」という表示が追加されます。（これはUSBドライバーがインストールされていないことを意味します）

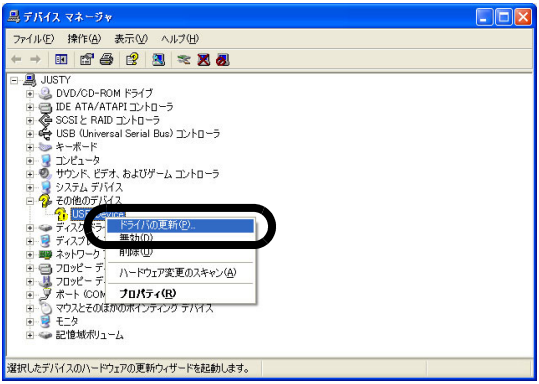


6 黄色の「？」マークと「USB Device」の部分で右クリックし、「ドライバーの更新」を選択します。

メニューが表示されます。

Windows98で、メニュー内に［ドライバの更新］が表示されない場合：

［プロパティ］を選択して［ドライバまたは全般］タブを開き、［ドライバの更新］をクリックします。

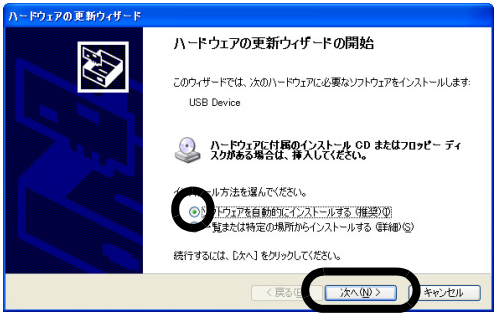


これより先の手順について

WindowsXPの手順は下記へ進んでください。
Windows2000の手順は90 ページへ進んでください。
WindowsMeの手順は93 ページへ進んでください。
Windows98/98SEの手順は94 ページへ進んでください。

USBドライバーの再インストール（WindowsXP）

7 「ソフトウェアを自動的にインストールする（推奨）」にチェックを入れ、［次へ］をクリックします。
「新しいハードウェアの検索ウィザードの開始」を行います。



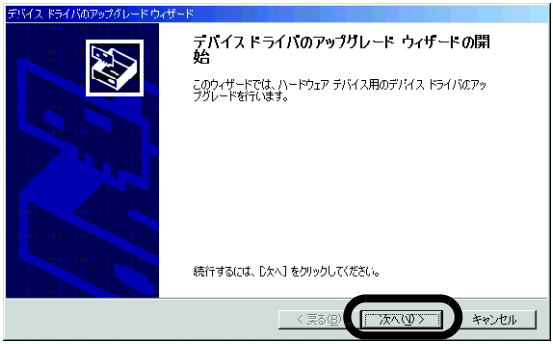
8 TM-ExplorerのCD-ROMをCD-ROMドライブに入れます。
TM - EXPLORERのインストールが始まった場合はキャンセルしてください。

9 「ソフトウェアを自動的に検出する」を選択して［次へ］をクリックします。
以降は（P.56）の3へ進んでください。

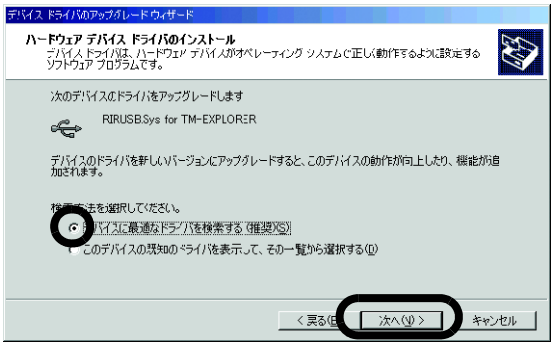
USB ドライバーの再インストール（続き）

USBドライバーの再インストール（Windows2000）

7 ［次へ］をクリックします。
「デバイスドライバのアップグレードウィザードの開始」を行います。



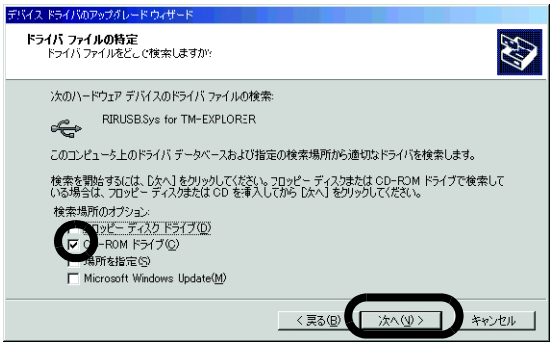
8 「デバイスに最適なドライバを検索する（推奨）」にチェックを入れて［次へ］をクリックします。



9 TM-ExplorerのCD-ROMをCD-ROMドライブに入れます。

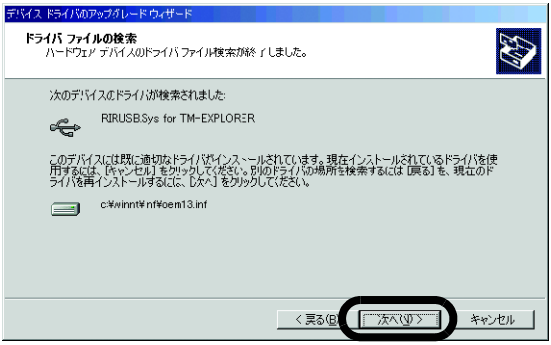
10 [CD－ROMドライブ(C)]にチェックを入れて［次へ］をクリックします。

［CD-ROMドライブ］以外のチェックは外しておきます。



11 ［次へ］をクリックします。

TM - EXPLORERのインストールが始まった場合はキャンセルしてください。

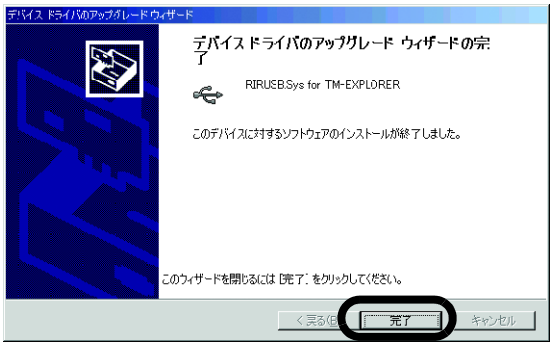


USBドライバーの再インストール（続き）

12 [参照]をクリックして、[CD-ROM]-[Driver]-[RIRUSB.sys]を選択し、[開く]をクリックします。

13 [OK]をクリックします。

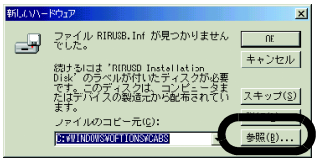
14 [完了]をクリックします。
TM - EXPLORERのインストールが始まった場合はキャンセルしてください。



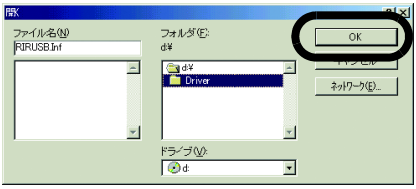
以上でUSBドライバーの再インストールは終了です。
開いているウインドウを閉じて再起動します。

USBドライバーの再インストール（WindowsMe）

7 ［参照］をクリックします。



8 ［CD-ROM］-［Driver］-［RIRUSB.sys］を選択し、「OK」をクリックします。



9 ［OK］をクリックします。
新しいハードウェアの追加ウィザード画面に移ります。

10 「OK」をクリックします。
USBドライバーのインストールが開始されます。
（コピー元にはドライブ名¥Driverが表示されています）

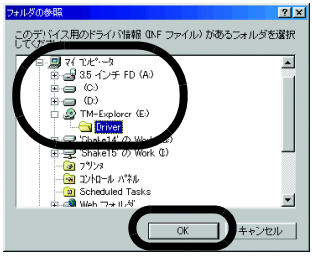
以上でUSBドライバーの再インストールは終了です。

USBドライバーの再インストール（続き）

USBドライバーの再インストール（Windows98/98SE）

7 ［参照］をクリックしします。

8 ［CD-ROM］-［Driver］を選択し、「OK」をクリックします。
「開く」をクリックしなくても自動的に次へ進む場合もあります。
新しいハードウェアの追加ウィザード画面に戻ります。



9 以下の手順は『USBドライバーのインストール（Windows98/98SE）』（P.62）の手順7以降を参照してください。

以上でUSBドライバーの再インストールは終了です。

便利な使い方

●充電式電池を使う方法

本機は市販の充電式の電池でもお使いいただけますが、動作時間はアルカリ電池より若干短くなります。
家電店で市販されております単四型の充電式ニッケル水素 (Ni-MH) 電池と専用充電器をお買い求めください。

●不要なファイルを消してメモリー節約

本機では本体に 32MB のメモリーを標準搭載しており、標準モードで約４時間録音できます。
保存したいファイルは TM-Explorer でパソコンに転送し、古いファイルや不要なファイルは消去します。なるべくメモリーの空き容量を多く作ることが上手に使うコツです。
どうしても録音時間が不足する場合はメモリーカードを別途購入して使います。

●メモリーカードによる便利な使い方

《TPO に合わせて入れかえる》

最大 256MB までのメモリーカードを各種差し替えながら使う事ができます。ラジオ講座の録音用、他の学習教材の録音用、お気に入りの音楽用など、用途別にメモリーカードを使い分けるとよいでしょう。

《メモリーカードの録音時間》

最大 256MB までのメモリーカードがお使いいただけます。
メモリーの使用量は、標準録音モードで 1 時間につき約 8MB、高音質モードでは 1 時間につき約 16MB です。
256MB のメモリーカードを使用した場合、最大約 36 時間（メモリーカードへ 32 時間、本体メモリーへ 4 時間）の録音が可能となります。

●お手入れの方法

普段のお手入れはやわらかい布で汚れを軽くふき取る程度で十分です。
汚れがひどい場合は薄めた中性洗剤を布に含ませ、良くしぼってふき取り、洗剤が残らないように新しい布でもう一度仕上げてください。
ベンジンやシンナーなどは、変質、変色の原因になりますので使用しないでください。

故障かなと思ったら

●予約タイマーの設定ができない

時刻の設定ができていないと予約タイマーの設定ができません。
時刻の設定を先に行ってください。
『時計を合わせる／修正する』(P.12) を参照してください。

●録音できない、録音したはずのファイル番号が表示されない

記録データが壊れてしまった可能性があります。
トークマスター本体の初期化 (フォーマット) を実行してください。
『本機の動作が不安定（本体でフォーマットを行う方法)』(P.102) を参照してください。

●ボタンを押すと止まってしまう

録音メモリーの初期化 (フォーマット) を実行してください。
『本機の動作が不安定（本体でフォーマットを行う方法)』(P.102) を参照してください。

●録音先を外部メモリーに切り替えられない

一度設定してしまうと録音周波数と録音先については後から修正できませんので予約タイマーをいったん削除して再設定します。
『予約を個別に消去する』(P.33) を参照してください。

●予約をしても設定した時刻に録音が開始されない

・時計がリセットされている可能性があります。

時計の時刻を確認してください。
『時計を合わせる／修正する』(P.12) を参照してください。

・予約設定の再確認

予約設定をすべて確認してください。
『予約内容を確認する』(P.37) を参照してください。

・予約設定は正しいが機能しない
他の予約設定と時間が重なっている可能性があります。
下の設定例の場合、予約設定 4 の設定が正しい設定になっていても火曜日は予約設定 1 が、土曜日は 8 が優先され、予約設定 4 は火曜日と土曜日には無効になります。正常に動作しない場合、他の予約設定と時間が重なっていないか確認してください。

予約設定	開始時刻	終了時刻	曜日
1	11:00	12:00	火
4	11:00	11:30	月～土
:	:	:	:
8	10:30	11:15	土

・開始時刻が同じ場合は予約設定番号が小さい方が優先されます。
(上の例では予約番号 1 と 4)
・録音予約が重なった場合は先に録音が始まると後の予約はキャンセルされます。
(上の例では予約番号 4 と 8)

●TM-Explorerを起動すると「トークマスターを接続してください」という表示が出る
USB 接続を使用してコンピュータとトークマスターを接続した際、トークマスター本体がコンピュータ側で認識されない場合があります。

・USB 端子の接続場所
コンピュータによってはTM-Explorerをインストールした際にトークマスターを接続していた場所の端子のみが有効となる場合があります。コンピュータ側の USB 端子接続場所は最初に決めた端子に固定してください。

・設定をやり直してみる
『USB ドライバーの再インストール』（P.86）を参照してください。

故障かなと思ったら（続き）

・TM-Explorer のバージョンを上げてみる
弊社ウェブサイトのトップページよりトークマスターのページに入っていただき、ダウンロードの項目をクリックすると最新版のプログラムをダウンロードすることができます。

サン電子ウェブサイトアドレス
http://www.sun-denshi.co.jp/index.html

●電池の消耗が早く感じる

ラジオを聴くだけであれば 10 時間程度の電池寿命があります。
ラジオの受信に加えて録音操作を行うとデジタル録音部も電力を消費するので電池寿命が短くなります。
『電池の取り扱いについて』（P.6）を参照してください。

自宅で予約録音や再生で使用するときは AC アダプター（別売）のご使用をお勧めします。

●録音したデータが無音、指定したラジオ局が録音されていない

予約設定が VOICE 録音 (マイク録音) になっている場合があります。ラジオを予約録音する場合、下の手順で行います。

（1）[周波数設定]
（2）録音先の設定
（3）録音曜日の設定
（4）開始時刻の設定
（5）終了時刻の設定

もし周波数設定が抜けていますと、VOICE 録音になってしまいます。
『予約を修正する』（P.35）、『ラジオをタイマー録音する』（P.26）を参照してください。

●よく時計が初期状態に戻る

AC アダプターのプラグを本機に差し込んだままコンセントから抜くと、本機に電源が供給されずに時計の設定が保持されなくなります。
AC アダプターをコンセントから抜くときは、本機に電池を入れ、本機からプラグを外してください。
（AC アダプターを外したり電池がなくなっても 30 分程度は時計の設定は保持されています）
『時計を合わせる／修正する』（P.12）を参照してください。

●WMA ファイルが再生できない

Windows Media Player で圧縮したファイル（WMA 形式のファイル）は本機に対応していますが､Media Player のバージョンが古いと再生できません。MediaPlayer を現行バージョン（バージョン 9）にアップデートしてからお使いください。

●USB ケーブルを正しく接続してもファイルが表示されない

USB ドライバーが正しくインストールされていません。
『TM-Explorer をインストールする』（P.53）を参照してください。

●設定した時刻に録音が開始されない

・時刻の設定が正しいか確認してください。

電池を抜いたり、AC アダプタをコンセントから抜いたままにしておくと、時計の設定が消えることがあります。
『時計を合わせる／修正する』（P.12）を参照してください。

・予約の設定が正しく行われたか確認してください。

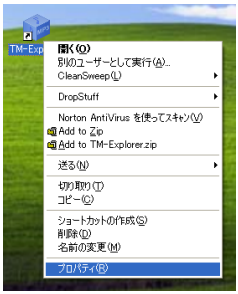
『ラジオをタイマー録音する』（P.26）を参照してください。

故障かなと思ったら（続き）

●WindowsXP で、TM-Explorer が正常に動作しない　その 1

WindowsXP の一部のバージョンで起動不良となる場合があります。
その場合は下記の設定を行ってください。

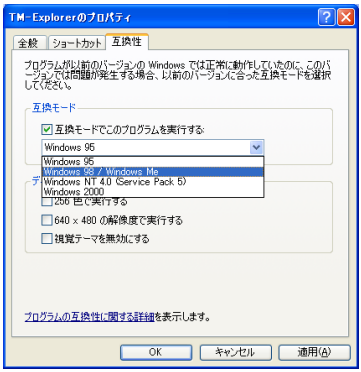
1 TM―EXPLORER を閉じた状態でデスクトップ上の TM―EXPLORER のアイコンを右クリックします。



2 [プロパティ] ― [互換性] のタブを開きます。

3 [互換モード] にチェックを入れてWindows98／Meを選択します。

4 [適用] ― [OK] をクリックします。



●WindowsXP で、TM-Explorer が正常に動作しない　その 2

WindowsXP の一部のバージョンで TM － EXPLORER の各スイッチなどを操作すると動作不良になる場合があります。

その場合は、下記の設定を行ってください。

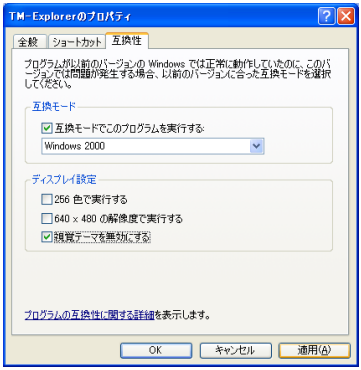
1 TM―EXPLORER を閉じた状態でデスクトップ上の TM―EXPLORER のアイコンを右クリックします。

2 [プロパティ] ― [互換性] のタブを開きます。

3 [互換モード] にチェックを入れて Windows2000 を選択します。

4 [視覚テーマを無効にする] にチェックを入れます。

5 [適用] ― [OK] をクリックします。



故障かなと思ったら（続き）

●本機の動作が不安定（本体でフォーマットを行う方法）

操作したとおりに本機が動作しない、本機が予期しない動作をするなど動作が不安定なときは、内蔵メモリーやメモリーカードのフォーマットを行ってください。

※ この操作を行うと、メモリー内の設定以外の全データが失われます。この操作は、あくまで動作が不安定でフォーマットする以外の解決方法がないときの最終手段として行ってください。フォーマットを行ったメモリーカードは他の機器で使用できなくなる場合があります。

《フォーマットの手順》

（1）MODE ボタンで VOICE モードを選択します。

（2）内蔵メモリー、またはメモリーカードのどちらかフォーマットしたいメモリーを A-B ボタンで選択します。

（3）REPEAT ボタンを画面の文字が全灯表示するまで、およそ 10 秒間押し続けます。
選択したメモリーが初期化されます。

※ 通常の消去は、ファイルの個別消去または一括消去（『録音ファイルを消去する』P.50参照）で行なってください。

●MP3 ファイルが再生できない

トークマスターで再生可能なビットレートは 16kbps ～ 320bps です。この範囲を超えますと正常に再生できません。

●WMA ファイルが作成できない

メディアプレイヤーを使用しても、WMA ファイルに変換できない音楽 CD があります。これは音楽 CD 本体にコピー防止の処理がされているためで、この処理がされた音楽 CD は WMA ファイルを作成できない場合があります。

●WMA ファイルを再生できない

メディアプレイヤーを使用して作成した WMA ファイルの中には、コンピュータ上で再生できてもトークマスターでは再生できないものがあります。これは WMA ファイル作成時に著作権保護処理が設定されているためです。

※ 詳細な設定方法については、メディアプレイヤーの [ヘルプ] でご確認ください。

Q&A 集

Question	Answer
再生速度は変えられますか？	できません。（頭出しのための 10 倍速再生機能は付いています）
MP3 VBR は再生できますか？	できます。VBR（可変ビットレート）VBRを利用しても大幅に音質が向上するわけではありません。
日をまたぐ録音の設定の方法は？	例　水曜日　夜23時から　明朝　1時までの場合、開始時刻　水曜　23:00、終了時刻　水曜　01:00 とします。曜日は水曜のままで 0 時をまたいでも終了時刻に設定した時刻で録音が停止します。
AM ループアンテナ端子はありますか？	端子はありませんが、結合器タイプのものが使えます。
ファームウエアのアップデートはできますか？	お客様によるアップデートはできません。
充電式ニッケル水素電池は使えますか？	充電式ニッケル水素電池は使用できます。ただし、アルカリ電池に比べて容量が大きくても電圧がやや低いので使用できる時間がアルカリ電池に比べて 7 割ぐらいになります。
録音プログラムは、一週間で消えてしまいますか？	予約録音の設定は、一度設定すればERASE 操作で消去するまで消えることはありません。
電源を切るときは、予約したラジオのモードで切らなければなりませんか？	予約設定した後は、どのモードで電源を切っても予約録音されます。
FM チューナーはステレオですか？	FMチューナーはステレオですから、直接放送を聞く場合はステレオで聞けます。（付属のイヤホンもステレオです）録音はモノラル録音です。
ラジオ番組を本機でメモリーカードに録音して、他の機械で再生できますか？	本機の録音フォーマットは独自形式になっているため他の機器でそのまま再生することはできません。
時計マークがいつも 3 時になっていますがどうしてですか？	時計マークは予約の認識マークです。予約時間の表示ではありません。 1 件でも予約があれば、常に 3 時を表示します。

Q&A 集（続き）

しばらくの間、予約録音しないようにする方法は？	一定期間録音を中止する機能はありません。中止する間、電池を抜いておき、再び使用する際に時計設定だけやり直せば予約録音が再起動します。
電池交換のとき、予約の設定は消えますか？	予約設定は消えません。長時間電池を抜いたままにしますと、時計設定だけは消えることがありますのでご確認ください。
メモリーカードの録音時間はどれくらいですか？	標準モードで録音する場合、8 メガバイトあたり約 1 時間録音できます。64 メガバイトのメモリーカードの場合、録音時間は、約 8 時間になります。
マッキントッシュで使えますか？	マッキントッシュには対応していません。
MP3って何の略ですか？	データ圧縮方式の一種で MPEG-1.0 Audio Layer-3 です。
録音したものを編集できますか？	編集機能はありません。録音ファイルを TM-Explorer で WAV 形式に変換したあと、別のソフト（※）で行ってください。
予約タイマーをセットした後、どうすればよいですか？	停止ボタンを長押して電源をＯＦＦにします。 録音開始時間が来ると、自動的に電源が入り録音を開始し、終了すると自動的に電源が ＯＦＦ になります。（電源 ＯＮ のままでも予約録音は動作します）

（※）Windows に標準でインストールされている『サウンドレコーダー』でファイル分割ができます。
［スタートメニュー］ー［アクセサリ］より選択してください。

NHK 第 2 放送局周波数一覧表

単位：kHz

北海道		福島	1602	熊野	1602	大洲	1476
札幌	747	郡山	1512	近畿地方		城辺	1539
函館	1467	会津若松	1539	舞鶴	1602	高知	1152
江差	1359	いわき	1539	福知山	1359	中村	1521
旭川	1602	関東甲信越地方		大阪	828	大正	1035
名寄	1125	東京	693	豊岡	1539	九州地方	
留萌	1359	新潟	1593	新宮	1359	北九州	1602
稚内	1467	高田	1359	田辺	1602	福岡	1017
遠別	1602	津南	1539	古座	1602	長崎	1377
室蘭	1125	甲府	1602	中国地方		佐世保	1512
浦河	1602	長野	1467	鳥取	1125	熊本	873
釧路	1152	小諸	1539	倉吉	1359	人吉	1602
中標津	1539	上田	1602	米子	1521	大分	1467
根室	1359	松本	1512	松江	1593	佐伯	1521
帯広	1125	飯田	1476	益田	1539	宮崎	1467
北見	702	岡谷諏訪	1359	浜田	1359	延岡	1602
遠軽	1539	駒ヶ根	1512	岡山	1386	都城	1359
東北地方		木曽福島	1602	津山	1152	小林	1539
青森	1521	伊那	1539	新見	1125	日南	1602
弘前	1467	東海北陸地方		広島	702	高千穂	1359
八戸	1377	富山	1035	呉	1521	串間	1512
盛岡	1386	金沢	1386	三次	1035	鹿児島	1386
釜石	1602	輪島	1359	東城	1602	名瀬	1602
宮古	1359	七尾	1467	福山	1602	阿久根	1467
大船渡	1359	福井	1521	福山木之庄	1467	徳之島	1539
久慈	1539	敦賀	1512	庄原	1359	那覇	1125
仙台	1089	小浜	1359	山口	1377	平良	1602
気仙沼	1539	勝山	1359	萩	1125	石垣	1521
秋田	774	中津川	1359	下関	1359		
横手	1602	高山	1125	四国地方			
大館	1359	萩原	1602	高松	1035		
花輪	1521	静岡	639	松山	1512		
山形	1521	浜松	1521	今治	1476		
新庄	1539	名古屋	909	新居浜	1035		
米沢	1359	豊橋	1359	八幡浜	1035		
鶴岡	1035	尾鷲	1539	宇和島	1602		

仕様

本体総合	
外形寸法	98.5 × 56 × 19 （縦×横×厚）
重量	約 80ｇ（電池別） ＊一般的なアルカリ電池を含む場合は約 102ｇ
電源	単四型電池× 2 本、AC アダプター (別売り)
内蔵メモリー	32MB
小型内蔵マイク	コンデンサマイク、モノラル
小型内蔵スピーカー	直径 28mm、最大 100mW
動作時間	録音時：約 7 時間、イヤホン再生時：約 11 時間、スピーカー再生時：約 6 時間） ※この時間はアルカリ電池を用いた場合で、あくまでめやすであり、電池の種類や保管状態、使用温度、条件等で変化しますので保証する時間ではありません。特に低温時やメモリーカードモードで動作する場合は電池寿命が短くなります。
イヤホン端子	3.5mm ジャック、ステレオ
外部マイク端子（LINE IN）	3.5mm ジャック、モノラル
USB 端子	miniB タイプ
電源入力端子	AC アダプター用
チューナー部	
チューナー	FM/AM 電子チューナー
チューナー感度	FM：5μV at S/N=26db AM：68dbμV at 1000kHz
周波数プリセット	FM/AM 各最大 10 局
可聴周波数	FM76 ～ 108MHz、AM522 ～ 1629KHz
録音部	
録音方式	独自圧縮方式モノラル録音
録音ビットレート	標準モード 16kbps ／高音質モード 32kbps 切り換え

録音メモリー量	標準モード約 8MB ／時間、高音質モードで約 16MB ／時間
週間プログラムタイマー	予約件数 最大 10 件
録音時間（内蔵メモリー）	標準モード約 4 時間、高音質モード約 2 時間
メモリーカードスロット	最大 256MB まで使用可能
保存ファイル数	最大 99（内蔵メモリー、メモリーカードにそれぞれ 99）
再生部	
再生ファイル	RVF（録音ファイル）、MP3、WMA ファイル
リピート再生	A-B 間、1 ファイル、全ファイル
MP3 再生ビットレート	16kbps ～ 320kbps
WMA 再生ビットレート	64kbps ～ 192kbps
PC インターフェース	
PC インターフェース	USB 1.1（miniB コネクタ）
専用パソコン用ソフト	TM-Explorer、専用 USB ケーブル付属
対応 OS	Windows 98、98SE、2000、Me、XP
その他	
使用条件	温度　0 ℃～ 40 ℃
AC アダプター（別売）	入力：AC100V 50/60HZ、3VA 出力：DC3V 200mA
標準付属品	CD-ROM、ステレオイヤホン、専用 USB ケーブル、オーディオケーブル、FM ケーブルアンテナ、ネックストラップ、単四型電池 2 本（動作確認用）、取扱説明書（修理／返品連絡票含む）

※ 外観、仕様は予告なく変更される場合がありますのでご了承ください。

MEMO

MEMO

MEMO

MEMO

保証規定

1. 保証期間内に、取扱説明書、本体添付ラベル等の注意書きによる正常なご使用状態において万一故障した場合は無料で修理いたします。
2. 保証期間内でも次のような場合は有料修理となります。
   (1) 保証書をご提示されないとき。
   (2) 保証書の所定事項の未記入、字句を書き換えられたもの、および販売店名の表示がないとき。
   (3) 火災・地震・水害・落雷・その他の天災、公害や異常電圧による故障および損傷。
   (4) お買い上げ後の輸送、移動時の落下等お取り扱いが不適当なために生じた故障および損傷。
   (5) 取扱説明書に記載の使用方法、注意に反するお取り扱いによって発生した故障、または損傷。
   (6) 改造または、ご使用者の責任に帰すと認められる故障、または損傷。
   (7) 接続している他の機器、その他外部要因に起因して本製品に故障を生じた場合。
   (8) 消耗品の交換。
   (9) 出張修理の場合（出張経費および技術料）。
3. 修理を依頼される場合は、当社へ保証書を添えてお送りください。
4. 本製品が、ご贈答品等で修理を依頼される場合は下記のユーザーサポートセンターにご相談ください。
5. 本書は日本国内においてのみ有効です。

※ 保証書は本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理を約束するものです。

したがって本書によって、お客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理等についてご不明の場合は、ユーザーサポートセンターにお問い合わせください。

保証書

[保証期間] 1 年間

[品名・型名] トークマスター　RIR-100

本書は、保証規定に記載された条件に基づいて、1 年間の無償修理をお約束するものです。
修理をご依頼される場合、本書の提示が必要となりますので、大切に保管してください。

尚、本書の再発行は致しませんのでご了承お願い致します。
(修理は現品をお送りいただいて、お預かりの上行います)

上記期間内に初期不良等の故障が発生した場合は、下記まで修理をお申し付けください。

〒 483-8555
愛知県江南市古知野町朝日 250

サン電子株式会社 ボイスラボ

ユーザーサポートセンター
TEL　(0587) 55-9800 (または (0587) 55-2154)
FAX　(0587) 53-7616

受付時間 10:00 ～ 16:00
(12:00 ～ 13:00・土日祝日・当社指定休業日を除く)

販売店印 (店名・販売日)

重要 当社より直接購入された場合は、納品書に販売証明書が添付されますので本保証書と共に大切に保管し、修理の際は、両方ご提示ください。

ご案内

●本製品の使用中に故障が発生した場合には、販売店またはサン電子株式会社にお問合せください。
交換、修理（有・無償）、払戻しおよび部品保有期間、またその他の補償規定は消費者保護法の補償基準に準じます。

●本製品に関する質問など、詳細な事項はサン電子株式会社にお問合せください。

お問合せのときは、次のことをお知らせください。

・商品名 / 型名

・お買い上げ年月日

・お問合せ内容：できるだけ詳しく

お問い合わせ先

●パソコン関係以外のお取り扱い方法に関するお問い合わせ
0120-501355（9:00-21:00、年末年始を除く土日祝も受付）

●修理、パソコン関係を含むお取り扱い方法に関するお問い合わせ
TEL（0587）55-9800　FAX（0587）53-7616
受付時間　10:00-16:00
（12:00〜13:00、土日祝日、当社指定休業日を除く）

●ホームページからのお問合せ
http://www.sun-denshi.co.jp/index.htmlからTalkMasterのページへ

サン電子株式会社

ボイスラボ
〒483-8555　愛知県江南市古知野町朝日250
TEL（0587）55-2154

2004.3月